

竹富方言の基礎語彙 : 分野8(民俗)、分野9(遊戯)

加治工, 真市

(出版者 / Publisher)

法政大学沖縄文化研究所

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

琉球の方言 / 琉球の方言

(巻 / Volume)

27

(開始ページ / Start Page)

61

(終了ページ / End Page)

95

(発行年 / Year)

2003-03-31

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00012855>

竹富方言の基礎語彙

加治工真市

本分野の方言資料は、すべて河上親雄氏（大正3年1月2日生）のご教示によるものである。河上氏は竹富方言の保存に深い関心を寄せられ、長時間にわたる録音調査に献身的にご協力いただいた。深く感謝申し上げるとともに、可能な限り正確に記録してご恩に報いたい。

——分野(8) 民俗——

「アーラシムチ」[ʔaːˈɾaʃimutʃi] (名) 小豆を煮て臼で潰し、黒糖を加え、蒸しあげて作った菓子。美味であった。

「アイノッタカイカン」[ʔaiˈnottakaikaŋ] (名) 東部落の会館。集会場。

アニナー [ʔaˈninaː] (名) 花嫁。新嫁。

アニナーヨイ [ʔaˈninaːˈjoi] (名) 結婚祝。

「キューヤヤー ヤモリーヤナードウ アニナーヨイヌ アットウ」
[ʔkjuːˈjajəː jaˈmoːˈɾjanaːdu ʔaˈninaːˈjoinu ʔatˈtuː] (今日は、山盛家に結婚祝いがあるそうだ)。アニナーヨイヌ アリッティドゥ ハリッタラー
[ʔaˈniˈnaːˈjoinu ʔaˈritˈtidu haˈritˈtaraː] (結婚祝いがあって、そこへ行ったのでしよう)。アニナーヨイ シッティ 「クッタルー」[ʔaˈniˈnaːˈjoi ʃitti ˈkutˈtaˈruː]
(結婚祝いをして来たよ)

「アンガ〜」[ʔaŋgãː], [ʔaŋgamaː] (名) 「姉ごたち」の義か。

「ジシトウ」[dʒiʃiˈtuː] (地謡) を揃え、踊り手が「ホーガキ」[hoːgaki] (頬被り) して三味線に合わせて踊り、家々を回って先祖霊を慰める舞踊隊。「ニンブチャー」[nimbutʃaː] (念仏歌) を三味線で弾くと踊り方が円座になって座し、曲目を地謡にリクエストして踊る。

「アンムチ」[ʔamˈmuˈtʃi] (名) 餡餅。主に小豆餡（小豆を煮てつぶし、黒糖を混ぜて作った餡）を入れた餅。ゴマ餡も入れて作った。

イシ [ʔiʃi] (名) 息。太陽の熱気。暑気。光線。

ティダヌ イシヌ 「ヘーリドゥ」 ウリヤー スダイナーユ 「カイリヤー」
[tiˈdaˈnu ʔiʃinu ˈheːridu ʔurijaː sudainaːju ˈkairiˈjaː] (太陽の熱気が射し込んでいるから簾を掛けなさい)。入り目を防ぐために簾をかけて熱気が射し込まないように

した。

イ「シウス [ʔiˈfiusu] (名) 石臼。石で作った碾臼。

イ「シウスティドゥ アンヅナッティヤー [ʔiˈfiusu tidu ʔanˈdzunattijə:] (石臼というよ)。餅を作ったり、豆腐を作ったりする際に用いる石製の臼。

イ「チ・ナン「カ [ʔiˈtʃiːnanˈka] (名) 五七日忌。人が死亡して後、第五週目の命日にとり行なわれる法事。

イ「ナ「ボ [ʔiˈnaˈbo] (名) 木の下に立つといわれる背の高い精霊。木の精。化け物の一種。

「マー「マーナー イ「ナボヌドゥ「 タ「チトゥー [ˈmaːˈmaːnaː ʔiˈnaboːnuduˈ taˈtʃitu:] (どこそこに イナボが立つそうだ)。夜に使いに出されると、イナボが怖いので大声で歌を歌って行ったという。

イ「ペ [ʔiˈpe] (名) 位牌。イ「フェ [ʔiˈfɛ] ともいう。

イ「ペーユ ティー「 ウシャー「シー [ʔiˈpeːjuː tiː ʔuʃaːˈʃi:] (位牌に手を合わせなさい)。イ「ペーイ ティー「 ウシャー「シー [ʔiˈpeːi tiː ʔuʃaːˈʃi:] (位牌に合掌なさい)

「イン「ノッタカイカン [ˈʔinˈnottakaikan] (名) 西部落の会館、集会場。

ウ「ガン [ʔuˈgaŋ] (動) 拝む。神仏を拝む。礼拝する。

ウ「ヤ「ヒトゥヌ 「マイ「ナー 「コー タイ「ヒティー ウ「ガン「ヤー [ʔuˈjaˈçitunu ˈmaiːnaːˈkoː taiˈçiːtiː ʔuˈgaŋˈjaː:] (先祖の前に香を焚いて拝みなさい)。「ニン「ガイ ヒキ「リー [ˈniŋˈgai çikiˈri] (祈願しなさい。願いつけなさい)。カ「ミ「ザー「ナー「イ 「ニン「ガイ ヒキ「リ [kaˈmiˈdzaːˈnaːiː ˈniŋˈgai çikiri] (神座《床の間》に祈願しなさい)。

ウツ「カ「バシャ [ʔukˈkaˈbafa] (名) 糸芭蕉の上皮で最も粗悪な繊維のとれる部分。

これを利用して凧揚げ用の細糸(こより、細い縄)を作った。赤い色をしている部分。ピ「ル「ユル [piˈruˈjuru] (凧揚げ糸、細縄) を作る繊維。

「ウン [ʔuŋ] (名) うん(運)。

「ウンヌ ジョー「トル シトゥ「チョー「ツター [ʔunnu dʒoːˈtoru ʃituˈtʃoːtˈta:] (運のいい人だった)。「アン「ジ 「ウンヌ カイ「サル シトゥッティン 「アツ「サー [ʔanˈdʒi ʔunnu kaiˈsaru ʃitutin ʔasˈsa:] (そんなに運のきれいな人《強運な人》とともいるものだ)。

「ウン「ケー [ʔuŋˈke:] (名) 盆の第一日、精霊迎えの日。先祖の霊を迎える日。

「トゥン「ドゥンチー [ˈtunˈduntʃi:] (門、入口) で、藁を束ねて燃やす。ウ「ヤ「シトゥヌ ミ「チェ「 [ʔuˈjaˈʃitunu mitʃeː] (先祖霊の通る道) を門から座敷の前まで白砂で作って、ウ「ヤ「シトゥヌ 「オー「ル ミ「チー [ʔuˈjaˈʃitunu ˈoːˈru miˈtʃi:] (先祖

のいらっしやる道) といった。先祖を迎えた夜は、「コーズーシー」[ko:dzu:ʃi:] (堅い雑炊) を供えた。

「オン」[ʔon] (名) お嶽。「おがみ」の転訛したものか。普通は「お願い」と言っているという。各お嶽には氏子がいて祭祀の準備、女神たちの補佐をしたりする。

「オンビ」[ʔomʔbi] (名) 各御嶽の氏子。「お願い《人》」の義か。各御嶽には、それぞれのオンビがいて、豊年祭のときに部落の役職人(公民館員や神女、司たち)が各御嶽を回って礼拝するが、その人達をオンビが接待した。

バ「ナー」ヤ ハ「ナックヌ オン」ビーデン ナツ「ティ」ヤー[baˈna:ˈja haˈnakkunu ʔomʔbi: den natˈtiˈjə:] (私は玻名城御嶽の氏子になっている)。「ワーヤ マ」ヌ 「オン」ピーリヤー[wa:ja maˈnu ʔomʔbi:rija:] (君はどここの氏子か)。

「カー」スン [ka:ˈsuŋ] (動) 乾かす。温める。

「カー」ス「ナ」[ka:ˈsuˈna] (乾かすな。温めるな)。「バン」ダヤー 「カー」サ「ヌー」[banˈdaja: ˈka:ˈsaˈnu:] (私は温めない)、「バン」ダヤー 「カー」シタダー「ルー」[banˈdaja: ˈka:ˈʃitadaru:] (私は温めたい)、「ハイ」サー 「カー」シヤー[haiˈsa: ˈka:ˈʃija:] (早く温めなさい)、「ワー カー」サンー 「バン」ダヤー 「カー」サ「ヌドゥ」ラー[wa: ka:ˈsam: banˈdaja: ˈka:ˈsanuduˈra:] (君は温めても私は温めないよ)。

「カー」チバイ [ka:ˈtʃibai] (名) 夏至の頃に吹く風。南の風が強く吹く。

「カー」ヌピー [ka:ˈnupi:] (名) ぼうぎれや古着を裂いて縋った縄につけた火。「皮の火」の義か。新生児のミ「チ」ンザシ[miˈtʃiˈndzaʃi] (道出し。初めて外出し、親戚の先祖を拜ませる儀式)の日に用いる祭具。「カー」ヌ「ピー」ヒキー[ka:ˈnuˈpi: ɕiki:] (カーヌピーをつけなさい。ぼろ切れ縄の火をつけなさい)。単独で、「カー」ヌ「ピー」[ka:ˈnuˈpi:]と発音されることもあるが、おそらく二語意識の反映したものであろう。

「カー」ラシ「アイ」 [ka:ˈraʃiˈai] (名) 「繫らせ喧嘩」の義。凧揚げ喧嘩。凧揚げ遊びの一種。

子供達が組を作って凧揚げ喧嘩をして遊んだ。糸の長い凧が喧嘩に強いので、友人同士で凧糸を貸しあって凧揚げ喧嘩をした。走りながら相手の凧に迫り、相手の凧の尾を自分の凧の糸に引っ掛けて落した。

カ「ナ」ツ [kaˈnaʔ] (名) かな (鉋)。カ「ナ」[kaˈna]とも。

カ「ナ」ヒキ シレー[kaˈnaˈɕiki ʃire:] (鉋をかけなさい)。カ「ナ」ツ「キ」シレー[kaˈnakˈki ʃire:] (鉋かけをしなさい。鉋引きをしなさい)ともいう。

「カン」ガン・ム「チ」 [kaŋˈgam-muˈtʃi] (名) 鏡餅。

正月に床の神の前に供える飾りの餅。三段重ねの餅の上に密柑を重せ、嘉例吉のシンボルとした。

「カンヌ・グシ」 [kan˧nu-gu˧fi] (連) 神の御酒。

「カンヌ・グシ」 カミ「リ」 [kan˧nu-gu˧fi˧ kami˧ri˧]。(神の御酒をいただきなさい)。

「ガン」 [ga˧ŋ] (名) 龕。死者の棺を入れて運ぶもの。

「キーウ「ス」」 [ki˧˧u˧su˧] (名) 木臼。松の大木の幹を用いて作った臼。粉摺り用の臼と精米用の搗き臼があった。ツ「シャイウ「ス」」 [ʃai˧u˧su˧] (精げ臼) は搗き臼である。

キ「ザル」 [ki˧dza˧ru] (名) 祭。祭祀。年中行事。神事。キ「ザル」で最大のものは「種取祭」である。願立てから終りまでの期間が10日間もあるという。ツ「カ「サ」」 [tsu˧ka˧sa˧] (司。神女) たちが10日間お嶽参りをして祈願する。部落の人が動き出すのはトゥ「ルッキ」 [tu˧rukki] の日からである。昔は、トゥ「ルッキ」の日は島から船を出してもいけないし、また、外部に出てもいけないというきまりがあったたという。

キ「チガン」 [ki˧tʃigan] (名) 結願祭。旧暦8月4日から5日にわたって行なわれる祭祀。キ「チガンマツリ」 [ki˧tʃi˧gamatsuri] (結願祭) ともいう。[ˈkju˧˧ːja ki˧tʃiganu˧ma˧tsuriju] (今日は結願祭です。) イ「チネンジュ」 ズーツ「トゥ」 ニン「ガイ」オーツ「タル」 ハ「ジ「リド」」 ナ「リ「ル「ユー」」 キ「ツガンツ「ティーノ」」 [ʔi˧tʃinendzu˧dzu˧t˧tu˧ ˈniŋ˧˧gai ˈʔo˧t˧taru˧ ha˧dʒi˧˧ridu˧ na˧ri˧˧ru˧ ˈju˧ ki˧tʃugantino˧] (一年中、ずっと祈願してこられたことの願ほどきになっています。結願祭というのは。)。豊年感謝の祈願。「セイノ「オタケ」」 [seino˧˧ʔotake] (氏子のいないお嶽。学校の側にある) 部落全体で支えている。「マイ「ノ」」オン [mai˧no˧˧ʔon] ともいう。「マイ「ヌ」」オン「アイド」 キ「ツガンヌ」 ニン「ガイヤ」 「シ「ティー」」 ピ「ロー」ハラヤ「ターブ」ドゥイキ「ンギンヌ」 ア「リー」ドゥリ「ユー」 (マイヌオンで結願祭の祈願をして、午後からは踊り狂言の奉納がありますよ)。昔は部落持ち回りで行われた。六名のツ「カ「サ」」 [tsu˧ka˧sa˧] (司) がいらっしやったが今は三名しかおられない。

「キン「コージ」」 [kin˧ko˧dzi] (名) 金麴。米や麦などを蒸して筵などに広げ、麴菌を繁殖させたもの。醤油や味噌を作る際に用いる。酒を作る際には黒麴を作って使用したという。

「クイ「ナーッキー」」 [kui˧na˧kki˧] (名) 結納。「妻乞い」の義。

「キュー「ヤーヤ」」 「クイ「ナーッキー」」 [kju˧˧ːja˧jə ˈkui˧na˧kki˧] (今日は結納「妻乞い」だ)。「キュー「ヤーヤ」」 バ「ナ」」 ジ「ナンヌ」 「クイ「ナーキ」」ティドゥ 「アイ「ラー」」 [kju˧˧ːja˧jə ba˧˧na˧˧ː dʒi˧˧ːnannu˧ kui˧na˧kkitidu˧ ʔai˧˧ːra˧] (今日は私の二男の結納であります)

グ「シ」 [gu˧fi] (名) 酒。「御酒」の義か。神仏の前に供える酒のこと。グ「シ」 カザレ「」 [gu˧fi˧ kadzare˧] (お酒を供えなさい)。「カンヌ」 グシ カミ「リ」 [kan˧nu gu˧fi

- kami「ri】 (神の御酒をおしいただきなさい)
- ク「マ^ーリャオン [ku「ma^ー:rjaon] (名) 細原御嶽。「バン^〇ダーヤー ク「マ^ーリャオンヌ 「オン^〇ピーッシャー[ban^〇da:ja ku「ma^ー:rjaonnu 「?om^〇bi:ʃfe:] (私たちは細原御嶽の氏子です)。
- ク「マ[〰]イ [ku「ma[〰]] (名) 緑豆。緑色をした、小粒の豆。もやしの原料として利用された。「細豆」の義か。
- ク「ロ^〇コージ [ku「ro^〇:ko:dzi] (名) 黒麹。酒を造る際に用いる麹。酒の醸造に用いる麹。
- 「コー [ko:] (名) 線香。沖縄線香。大和線香。
「コー^〇 タイ「ヤ^ー [ko:「tai「ja:] (線香をたきなさい。線香を焚いて合掌しなさい)。
- 「コージ [ko:dzi] (名) こうじ (麹)。
「コージユ ヌンバシヤ^ー [ko:dziju numbafi ja:] (麹をたたてなさい。「麹をねかせよ」の義)。
ミ^〇「シュ^〇ヌ コージ ヌンバシダ^ル [mi^〇ʃu^〇nu ko:dzi numbafida^ル:ru:] (味噌用の麹をたてている。《~をねかせている》)。
- 「コー^〇ネ[〰] [ko:「nē:] (名) 男の子。男子。
「ナ[〰] マリル ファ^ーヤー 「コー^〇ネ[〰] マリ ドウ^〇ラー [na[〰] mariru φa:ja: ko:「nē: maridu^〇ra:] (今生まれる子は男児が生れているね)
- 「コン^〇トウオン [kon^〇tu?on] (名) 南村に祭られている。トゥ^〇ヌ^〇イムトゥ [tu^〇nu^〇imutu]神の御嶽。
- 「ザー [dza:] (名) 種取祭当日の舞台。奉納舞踊場。当日の舞台本番のこと。
「ザー^〇ナイ^ー イ^〇ザ^〇サンメ^ー マ^〇チ^〇ガイ 「ネ^ーヌ ジョ^ート^ーニ ヒ^〇ク[〰]イ^〇ライ ドウ^〇ラー [dza:「nai: ?i^〇dza^〇samme: ma^〇tʃi^〇gai 「ne:nu dzo:「to:ni çi^〇ku[〰]raidura:] (舞台本番で出しても間違いないよ。上等《立派》に仕組みられているよ)
- 「サン^〇ガ^〇チ [san^〇ga^〇tʃi] (名) 三月。「サンガチ^〇サニチ [sangatʃi^〇sanitʃi] (三月三日)、ハ^〇マウリ [ha^〇mauri] (浜下り)、などがある。
- 「サンガチ^〇サニチ [sangatʃi^〇sanitʃi] (名) 旧暦3月3日祭。女性主体の祭り。男も女も潮が干くと潮干狩りに出る。口碑によると、蛇の化身である男と契りを結び、懐妊した女が、老婆の教えにより、後朝のわかれに麻糸を男の髪に刺しておいた。翌朝その糸をたどって行ったところ、岩穴に入り、男の正体が蛇であることを知った。女は、老婆の教えにより、旧暦3月3日に潮干狩りに出て蛇の子を流産した。以後旧暦の3月3日は女の祭りとなったという。
「ン^ーヌ^〇ムチ [n:nu^〇mutʃi] (いも餅) のだんごを作って潮干狩りの弁当に持参した。三月三日祭の供物として作られた。
- 「サンガナ [sangana] (名) 芋を搗りおろす器具。「サンガナティドウ アン^〇ジ アン

クラー [ˈsaŋɡanatiɖu ʔanˈdʒi ʔaŋkuˈra:] (サンガナと言うねえ)。

「サン」ケー [ˈsaŋˈke:] (名) 棧敷。十五夜の綱引き行事が行なわれる際に、村部の長老たちが座して参観するために作られた。昔はマ「ミン」ドー [maˈminˈdo:] (河上家の前の十字路の名) で作られたという。

「シーシ」 [ʃiːʃi] (名) すす (煤)。

フル「ヤー」 クーシー 「シー」シ カビー ミ「ジ」 アウナー「ッ」タ ナ「リョー」サ「レーン」シェー [ɸuˈruˈjaː kuːʃiː ʃiːʃi kabiː miˈdʒi aũnaːtˈtaː naˈrjoːˈsareːnʃeː] (古家を壊して、煤やほこりをかぶって、水を浴びないと、いけないようだ)、フル「ヤー」 クースッター 「シー」シ カビー ミ「ジ」 アイ「ナー」ドゥ「ッ」 ナ「リョー」サ「ルー」 [ɸuˈruˈjaː kuːsuttaː ʃiːʃi kabiː miˈdʒi ʔaĩːnaːduˈ ˈnaˈrjoːˈsaˈruː] (古家をとり壊したので煤やほこりをかぶり、水浴びした方がよさそうだ)

「ジー」キョングイン [ˈdʒiːˈkjoŋɡiŋ] (名) 結願祭に演じられる狂言。「例の狂言」の意。長老が出てきて、各部落の有志を呼び集めて結願祭に出かけるという内容。狂言は、この場面から始まる。これをシ「バン」 [ʃiˈbaˈŋ] (始番の義か) という。次に必ずイモの祈願をして狂言に移る。この祈願を「ハンツメ」 [ˈhantsume] の願いとい、その後ハンツメの狂言をする。狂言の内容は、ほゞ次の通り。部落の公民館長の娘が、今日は、二、三日したら結願祭が来るから、さあイモ掘りに行こうと誘う。歌をうたいながらイモ掘りをする風景があって、次に西部落の長老の息子が掘り出した芋 (イモ) を担ぎに来る。担ごうとすると尻を押ししたりして性的な「かまけわざ (感けわざ)」をして人々の笑いを誘う。そのようにして芋をたくさん担いで、「アーフ」 [ʔaːɸu] (番) に乗せて担ぎ、喜び勇んで歌をうたいながら幕の内に入って行く。歌の意味は、男と女の間関係を、性描写をリアルに表現しているという。

「ジー」ジョーン [ˈdʒiːˈdʒoːŋ] (名) 屋敷内に石を立てて祀った神様。「土地の神」という。今ではあまり見られない。「地蔵」の転訛したものであろう。国吉宅の十字路の角に「ジー」ジョーンが祀られている。

「コー」ナー 「ジー」ジョーンヌ ア「ッ」チョー [ˈkoːˈnaː ˈdʒiːˈdʒoːnnu ʔatˈtʃoː] (ここに地蔵様があるよ)

「シーブ」 [ʃiːbu] (名) 歳暮。中元。昔は自分で作った大根やお米、いも類を親戚、縁者の家に贈ったりした。「シヨン」ガチヌ 「シーブ」ユー [ʃoŋˈɡatʃinu ʃiːbujuː] (正月の歳暮でございます) といって歳末の贈物をしたり、中元の贈物をした。ク「レー」メ「ヤー」タンティン 「シヨン」ガチヌ 「シーブ」ティドゥ ム「チ」ゲッタケンナー ウ「キ」トゥリ「オー」リ「ッ」ティ マ「ター」イー「ッ」 ショングチ 「ショー」ラナー「ラー」 [kuˈreː meːˈjatantiŋ ʃoŋˈɡatʃinu ʃiːbuˈtidu muˈtʃiˈgettaken naː ʔuˈkiˈturi ʔoːritˈtiː maˈtaː ʔiːˈ ʃoŋɡatʃi ʃoːˈranaːˈraː] (これは、少しですが正月用の歳暮

として持参しましたので、ご受納下さいまして、また、いい正月を共にお迎えしましょう)と言いかわした。

シ「チ [j̥iːˈtʃi] (名) 節祭。旧暦七～九月に行われる豊作祈願祭。後生の正月ともいわれる。シ「チ「ミッカ[j̥iːˈtʃiˈmikka] (節三日) は忌み嫌って畑作業に出なかった。

シ「チ「ミッカ [j̥iːˈtʃiˈmikka] (名) 節三日の日は忌み嫌って畑に出なかった。「ション「ガチミッカ[ˈʃoŋˈgatʃimikka] (正月三日) も同様に畑仕事に出なかった。今の若者はそれを知らない。昔は、「ション「ガチミッカサーニドゥ ハ「テ「ン シー「ッティドゥ 「トーリ「ッ「タ「トゥー[ˈʃoŋˈgatʃimikkasaːnidu haˈteːˈŋ ʃiːttidu ˈtoːritˈtaˈtuː] (正月三日に畑仕事をして倒れたそうな) といわれたという。

シ「バン [ʃiˈbaˈŋ] (名) 「始番」の義か。

「ジー「キョンギン[ˈdʒiːˈkjoŋgiŋ] (例の狂言) の狂言始めの意。長老が現われて、各部落の有志を集め、結願祭に出かけることを述べ、狂言を展開させる部分。

ジ「ル [dʒiˈru] (名) 地炉。お産の時に作った。

ジ「ル「ユー プ「クリ「ティー 「アイ「ター 「ミ「ド「ヌー 「ファー ナシェー「ル アト「ユー ク「シナカー「ス「ッタルー ス「リカー「ス「ッタルー 「シリヤ「ー[dʒiˈruˈju ɸkuriˈtiː ˈʔaiˈtaː ˈmiˈdoːnu ˈɸaː naʃeːˈru ʔatujuː kuˈʃinaːˈsuttaruː suˈrikaːˈsuttaru ˈʃiriːjaːː] (地炉を作って産婦が子を産んだ後、背中を乾かしたり、お尻を乾かしたりしなさい。火をあてて温めることをいう)。*ク「シ「ナーkuˈʃiˈnaː (背中) *ス「リsuˈri (お尻) *「カー「スンkaˈsuŋ (乾かす)

「ジュー「ゴヤ [ˈjuːgoja] (名) 「ジュン「グヤ[ˈdʒuŋˈguja]とも。旧暦8月15日に行われる十五夜祭。各部落の旗頭(東部落は太陽を形取ったもの。ティ「ダ「カチラ[tiˈdaˈkatʃira]《太陽旗頭》、西部落は「亢竜」を形取ったもの。「リュ「カチラ[ˈrjuːˈkatʃira]《亢竜旗頭》)をマ「ミン「ド「ー[maˈminˈdoː] (十字路の名) に集めていたが、今は学校に集まり、東と西に分かれて綱引きが行われている。そこで十五夜のグ「シ[guˈʃi] (御酒、神酒)をカ「ミ「ル[kaˈmiˈru] (いただく)という。旗頭をそこから東部落へ運び、さらに仲筋部落へ行き、西部落へ帰ってきて旗頭を片付け、各支会に分かれて観月会をした。仲筋部落の旗頭は鯉を象ったものである。二匹の鯉が踊っている形をデザイン化したもの。立身出世を祈願するものという。

「ジュー「ルックニチ [ˈdʒuːˈrukunitʃi] (名) 旧暦の1月16日祭。お墓で先祖の正月を祝う祭。「先祖の正月」といって、墓で一族が集まり、御馳走を供え、歌、三味線で祝った。

「キュー「ヤ ウ「ヤ「ヒト「ヌ 「ション「ガチ「ッティー アヒ「ティー 「ジュー「ルクニチ カザリ シー ハ「カ「ソージ「 シナー「ッティドゥ ア「ロー[ˈkjuːˈja ʔuˈjaˈç̥iːtu nu ˈʃoŋˈgatʃitti ʔaç̥iːː ˈdʒuːˈrukunitʃikadzari ʃiː haˈkaˈsoːdʒi ʃinaːttidu ʔaˈroː] (今日

は、先祖の正月とって、十六日飾りをして、墓掃除をしにとって行くところだ)
「ジュン」グヤヌ・ム「チャー」 [ˈdʒuŋˈɡujanu-muˈtʃaː] (連) 十五夜の餅。俵の形に成形して蒸したものに煮た小豆を表面にまぶして作った餅。

シ「キ」ヌ マイ「ッ」タ「ナー」 フ「カン」ギトウ 「ジュン」グヤヌ・ム「ト」ウヤー カ「ザ」リティー ジュン「グ」ヤヌ ニン「ガイ」 シレー [ʃiˈkiˈnu maitˈtaˈnaː ɸuˈkaŋˈɡitu ˈdʒuŋˈɡujanu-mutʃitʃuːjaː kaˈdzaritiː ˈdʒuŋˈɡujanu niŋˈgaiˈ ʃireː] (お月様の前にフカンギと十五夜餅とを供えて、十五夜の祈願をなさい)。ッティ 「アン」 ジョー「ッ」タ チョー「ラー」 [ttiː ˈʔanˈdʒoːttatʃoːˈraː] (～と、おっしやっておられたそうな)。シヨ「ッ」コ [ʃokˈko] (名)「焼香」の義。法事。仏前で香をたいて成仏を祈願する法事。四十九日忌は、「フー」ショ「ッ」コ [ɸuːˈ ʃokˈko] (大きな焼香、大法事)となる。ショ「ッ」コ [ʃoːkˈko] (法事)は三十三年忌までとり行う。

「ショー」ロー [ʃoːroː] (名)お盆祭。「精霊」の義。「ショー」ロー「ヒキ」 [ʃoːˈroːçiːki] (精霊月、旧暦7月13日、14日、15日)。精霊月には祝いごとは一切行わない。
「ショー」ロー「ヒキ」ヌ キードウ ウリーヤ〜 [ʃoːˈroːçiːkiːnu kiːdu ʔuriːjaː] (精霊月がきているので～)

シ「ラ」ヨイ [ʃiˈraːjoi] (名)生後7日目に行なう満産祝い。「産屋祝」の義。産婦と新生児が産屋(産室)から出て、ミ「チ」ンザン [miˈtʃiˈndzafi]をした。「マン」サン [ˈmanˈsan] (満産)ともいう。

「シン」ジュ「クー」 [ʃindʒuˈkuː] (名)四十九日忌。人が死亡して後、第七週目の命日(四十九日)にとり行なわれる法事。

ス「ズル」ッタ「ム」リ [suˈdzuruˈtaˈmuri] (名)ス「ズル」タ [suˈdzuruta]を盛ったもの。八寸角の重箱に御馳走を盛り、長いお膳(バ「キ」トゥルン)に乗せ、酒一升を添えて花嫁を買いに行く。この時の御馳走を盛ったものをいう。これが「クイ」ナー「ッキー」 [kuiˈnaːkkiː] (結納)の際の供え物である。ス「ズル」ッタ「ム」リ シティ 「イ」ッ「シ」ビナー グ「シ」ユー イ「リ」シティ 「ム」ッ「チ」ハリドウ 「クイ」ナー「ク」シッタナ「ッ」ティヤ〜 [suˈdzuruttaˈmuri ʃiːtiː ˈʔiˈʃubinnaː guˈʃiːjuː ʔiˈriˈʃiːtiː mutˈtʃiˈharidu ˈkuiˈnaːkkeː ʃittanatˈtijaː] (スズルッタを盛って、一升瓶に御酒を入れて持って行って結納をしたものだよ)。

ス「ダイ」ナー [suˈdaiˈnaː] (名)簾。竹やスキで編んで軒に垂らしたり、立てかけたりするに用いた。夏の日光をさえぎるのに用いた。ティ「ダ」ヌ 「ヘー」リドウ ウリーヤ ス「ダイ」ナー「ユ」 「カイ」リヤ〜 [tiˈdaˈnu ˈheːriduː ʔuriːja suˈdaiˈnaːju ˈkairijaː] (日光が差し込んでいるからスダレをかけなさい)

ス「ニ」バチ [suˈniˈbatʃi] (名)ばち(罰)。

ス「ニ」バチ アタルン「ドー」 [suˈniˈbatʃi ʔatarunˈdoː] (ばち《罰》が当たるぞ)。

「アイ¹ル クトゥ シースニヤッター ヒ¹トゥ¹ヌ ス¹ニ¹バチ アタルン¹ドー
[ʔai¹ru kʉtu ʃi:sunijatta: ɕi¹tu¹nu su¹ni¹batʃi ʔatarun¹do:] (そんなことをする
と人の罰が当たるぞ)

ス¹ビ¹ヒ¹キャ[su¹bi¹ɕikja] (名) おしめ (襦袢)。ス¹ビ¹ッ¹キャ[su¹bikkja] (おしめ) と
も発音する。

ス¹ビ¹ヒ¹キャ ヒケー[su¹bi¹ɕikja ɕike:] (おむつを敷きなさい《当てなさい》)。

「ナ¹デー ス¹ビ¹ヒ¹キャー ツ¹カイドウダー ス¹ビ¹ヒ¹キャー ヒカナッター
ユ¹グリドウ ウリヤー¹ ス¹ビ¹ヒ¹キャー ッ¹キドウラー¹ [na¹de: su¹bi¹ɕikja:
k¹kaiduda¹: su¹bi¹ɕikja: ɕikana: ju¹guridu ʔurja: ʔ su¹bi¹ɕikja: k¹kidura¹:] (今まで
おしめを使っているよ。おしめを敷かないと汚れているから、おしめを敷いているよ)
昔は古着を使っておしめを作っていた。

ス¹ム¹ヤッケ [su¹mu¹jakke] (名)。シ¹ム¹ヤッケ[ʃi¹mujakke]ともいう。今は「会館」
と言っているという。「アイ¹ノッタカイカン[ʔai¹nottakaikan] (東の会館)。「イン¹
ノッタカイカン[ʔin¹nottakaikan] (西の会館) と言う。「ナージ¹カイカン
[na:dʒi¹kaikan] (仲筋会館)。「建物」の義という。ス¹ム¹ヤッケ[su¹mu¹jakke]は、
あるいは「下屋敷」(村の別邸、集会場)の義か。

ス¹ルンガニ [su¹runɡani] (名) はりがね (針金)。

「ス¹ルンガネー [surunɡane:] (名) 針金 (はりがね)。「ス¹ルンガ¹ネー¹サーンディ¹
フィリヤー¹ [su¹runɡa¹ne:¹sa:ndi¹ʔuirija¹:] (針金でくくりなさい)

「ソ¹ン¹ガチ [soŋ¹gatʃi] (名) 一月。「正月」の義。これより転じて、「一月」の意に
用いる。「ソ¹ン¹ガチヒキ[soŋ¹gatʃi ɕiki] (一月の月。「正月の月」の義)。

「ソ¹ン¹ガチ [soŋ¹gatʃi] (名) 正月。年の始め。正月には、「ナージ¹ガー¹ [na:dʒi¹ga:]
(降り井戸) から若水を汲んできた。ミ¹ジヌハチ¹フニキー 「ヤー¹ニンジュー ミ¹
ズーヌハチサーニ ウ¹ティ シ¹シー¹リ [mi¹dʒinuhatʃi¹ ʔuniki: ʃa:¹nindʒu:
mi¹dzu:nuhatʃisa:ni ʔu¹ti ʃi:ʃi:¹ri] (若水を汲んできて家族みんな若水で顔を洗わせな
さい。洗顔させなさい)。また正月には浜から新しい砂を運んで庭に敷きつめた。イ¹
シャー¹ハクチ[ʔi¹ʃa:¹ hakʉtʃi]という、新里村 (古村跡) の大きな浜の大岩のある所
から砂を取り、各家に運んだ。大晦日の日に砂運びをした。床の間、仏壇、火の神に
は鏡餅を供え、その上に密柑を置いた。床の間には重箱に米を入れて五段重ねにした
ものを供えた。「マーシュ¹ウサイ [ma:ʃu¹ʔusai] (塩の盛りつけ) も供えた。

戦前、竹富島に村役場があったたので、早くから新正月に統一されていた。旧正月を
するのは、神役関係の人、農家あたりで、新、旧の正月を祝った。

タ¹ク¹カーラシ [ta¹ku¹ka:raʃi] (名) 凧の喧嘩。「凧繫らせ」の義か。凧揚げ遊びの一
種。凧を繰りながら、相手の凧の尾を自分の凧のピ¹ル¹ユル [pi¹ru¹juru] (凧揚げ糸)

に引っ掛けて落す遊び。「凧繫らせ遊び」の意。タ「ク」カーラシヨーブ シラ「ディ
ー」[ta'ku' ka:raʃi jo:bu jira'di:'] (凧の喧嘩をして遊ぶようよ)

タ「ナバタ」 [ta'nabata] (名) 七夕、棚機。昔は民間ではあまり行なわなかったという。旧暦の七月七日(丙寅、ひのえとら)になると、公民館の役員がミルク(弥勤)拝殿に行き、ミルクの面を飾って、精霊月に入ったことを報告したという。安置された衣裳なども取り出して飾り、一種の虫干しをしたという。昔は旧家の大山家にミルクは安置されていたという。

タ「ニ」ドウル [ta'ni'duru]、タ「ナ」ドウイ [ta'na'dui] (名) 種取り祭。種取祭はトゥルッ「キ」[tu'ruk'ki]から始まる。穀物の種を蒔いて順調に発芽するよう祈願する祭祀。粟の種は11月頃から播種し始める。島を挙げてとり行われ、「庭の芸能」と「神事芸能」が盛大に演じられる。第一日にバリ「ビルヌ・ニガイ」[ba'ri'birunu-nigai] (大蒜の発芽祈願)があり、第二日には、「ムイムイヌ・ニガイ」[muimuinu-nigai] (もやし、萌やしの祈願)がある。大蒜お萌やしのよう発芽することを祈願する。余興は第1日目に行われる。トゥルッ「キ」から4日目にあたる。タ「ニ」ドウルは10日間にわたって祈願される祭祀である。第1日目の余興には、ハ「ザマ」[ha'dzama] (今は東部落と西部落を一緒にしてなされる狂言)があり、第2日目は「ナージ」[na:dʒi] (仲筋部落の芸能、狂言)が演じられる。狂言は、ほとんど五穀豊穰を祈るものである。「ホンジャー」[hondʒa:] (長者)が現われ、各種の種ものを持参し、祈願して帰る。その後ミ「ルク」[mi'ru'ku] (弥勤神)が出てくる。次に農具を整える鍛冶屋が出、鍬を担いだ男が出て開墾、畑を耕す芸能が続く。最後に「ユー」ヒキ「ユ」[ju:'çi:ki] (豊穰予祝)の芸能が演じられる。これでジー「キョンギン」[dʒi:'kjoŋgin] (例の狂言)は終了する。タ「ナ」ドウイヌ ヨ「キョーヌ ジュンバンユ」 ッ「シャルナーラ」。ハ「ジェ」ヤー「ダ」イ イ「チ」ニチメーヤ ハ「サ」ヌ ヨ「キョーヌドゥ ジュー」イチジバーイラ ユ「ムチ オタ」ケヌ 「カン」ヌ 「マイナー」イ ハ「ジャ」ール ユー。サイ「ショーヤメー 「ホン」ジャーヌ イ「ジョーリ」ッ「ティー 「ヌー」サラ」 ニ「ガイ」ヒキ「オー」ッ「タ オ」カゲ「サーニ カイ 「ホー」サク シライタティ アシ「ティー 「ホー」サクヌ」ム「ヌ」ッ「クイユー ム「チャー」リ 「ホン」ジャーヌドゥ 「ニン」ガイオール「ユー」。ウ「ヌ ツゲーヤ」 ミ「ルク」ヌカン」ヌドゥ ン「ジョーリ」シティ 「ファー」マーユヒ「キスー」リー「 ミ「ルク」ヌ カン」ヌドゥ ン「ジョール」ユー。マター「 ウ」ヌ ツゲーヤ「 カ「ジャー」ヌ、カ「ジャー」キョンギンヌ 「ニヒ」シティドゥ クヌー ム「ヌ」ッ「クイ」ユー「 シルー ヒ「ラ」カナパイ ツ「トゥ」ナナッター ナ「ラ」ヌッ「ティー カ「ジャー」ヌ」 ン「ジョー」リ カ「ジャー」ヌ キョン「ギン」ヌドゥ ハ「ジャ」ール「ユー」。カ「ジャー」ヌキョン「ギン」ヌ ア「トー」ハラーヤメー バ「ガ」サル ムヌヌ ン「ジキー」ドゥ ハ「テー」イドゥ ハ「タイ」ドゥ チャン「ティー 「ジー」 ナ「ラー」シ「シー」ウ

「ルイ」ヌ 「クー」ヌドゥ マツ「ツー キョン」ギンドゥ 「シー」ル「ユー」。
 [ta^hna^hduinu jo^hkjo:nu dzumba^hju^h j^hfaruna:ra^h. ha^hdʒe^h:ja: ^hda^hi^hʔi^htʃi^hnitʃime:ja
 ha^hsa^h:nu jo^hkjo:nudu dz:^hitʃidʒiba:ira ju^hmu tʃi^hʔota^hkenu^h kan^hnu^hmaina:^hi
 ha^hdʒa:ruju: sai^hʃo:jame: ^hhon^hdʒa: nu^hʔi^hdʒo:rit^hti: ^hnu:sara^h ni^hgai^hçiki ^hʔo:t^hta
 ʔo^hkage^hsa:ni kai^h ho:saku^h ʃiraitati ʔa^hʃi^hti: ^hho:sakunu^h mu^hnuk^hkuiju: mu^htʃo:ri
 hon^hdʒa:nudu ^hni^hç^hgaio:ru^h ju^h. ʔu^hnu tsuge: ja mi^hrukunukan^hnudu n^hdʒo:ri^hʃi^hti
^hʔa:ma:ju ç^hkisu:ri: mi^hrukunu kan^hnudu n^hdʒo:ruju:. mata^h ʔu^hnu tsuge:ja
 ka^hdʒa:nu^h ka^hdʒa:kjoŋginnu niç^hʃitidu. kunu: mu^hnuk^hkui^hju: ʃiru: ç^hra^hkanapai
 tsu^htu^hnanatta: na^hra^hnutti: ka^hdʒa:nu^h n^hdʒo:ri^h ka^hdʒa:nukjoŋ^hginnu
 hadʒa:ru^hju: ka^hdʒa:nukjoŋ^hginnu ʔa^hto:haraja me: ba^hga^hsaru mununu
 n^hdʒiki:du ha^hte:idu ha^htaidu tʃan^hti^h dʒi: na^hra:ʃi^h ʃi: ʔu^hrui^hnu^h ku:nu
 mat^htsu: kjoŋ^hgindu ^hʃi:ru^h ju:] (種取祭の余興の順番を申し上げます。最初は、第
 1 日目は玻座間部落の余興を11時ごろから世持御嶽の神前で始まるのです。最初はも
 う、ホンジャ（長者）が出現されて、いろいろ祈願されたお陰で、このように豊作す
 ることができました。そして豊作の産物（作物）を持参されて、長者が祈願されます。そ
 の次は弥勤の神様が出現されて、子孫をたくさん引き連れて、弥勤の神様が出現され
 ます。また、その次は鍛冶の、鍛冶狂言が始まります。鍛冶狂言の後からは、もう若
 い者たちが出てきて、畑をきちんと地ならしして、潤いの雨がやってくるのを待つ狂
 言をしています)

ダ「ビ」 [da^hbi] (名)「茶毘」の義。葬式のこと。昔は人が死ぬと、ム「ラ」コーデン
 [mu^hra^hko:den] (村で決められた香典)があつて、それを部落でまとめて出し、葬式
 をいとなんだ。棺は各自で、デイゴの木で作った板を用意していた。それを早く死ん
 だ人に貸した。「ニンブチャー」[nimbutʃa:] (念仏者)がいて、代々その家の人を経
 を読んで葬式をいとなんだ。

タル [ta^hru] (名)大豆や糯米を碾いて豆腐、餅を作るのに用いる大型の桶。直径約
 55センチ、高さ約40センチの木製の桶。木板を組み、張り合わせて作られている。

「タンカヨイ」 [taŋkajoi] (名)誕生祝い。生後1年目の誕生日を祝う儀式。「タンカー
 キシ」ター 「タンカ」 カ「ミ」シター 「ポー」レナリー タンカー カ「ミ」タ「シャ
 ー」 [taŋka: ^hkif^hi^hta: ^htaŋka^h ka^hmi^hʃi^hta: ^hbo:renari:] (誕生日が来たので、誕生日を拜
 んだら元気な子になっている)。誕生祝いは、いろいろと御馳走を作って、餅も作り、
 帳面と算盤と秤などを供えた。マ「ラ」シンガン[ma^hra^hʃingaŋ] (産土神)の前で祈願
 をし、供物を子供の前に置いて、子供に選択させるようにする。子供が最初に秤を取
 ると商才がある子供といい、帳面を取ると、学問の道に進む才能があるといって、親
 達は子供の将来に夢を託したものである。

チ「チ [tʃiːtʃi] (名) 節祭り。チ「チマツリ [tʃiːtʃimatsuri] (節祭り) ともいう。旧暦8月11日に行なわれる。ミルク神の「お面」(ご神体)を出して拝む。

ティ「ダ「カチラ [tiːdaˈkatʃira] (名) 東部落のシンボルである旗頭のこと。太陽を象ったデザインの旗頭。旧暦8月15日の十五夜の日に綱引きの行事が行なわれるが、その時に担ぎ出される。昔は、東、西、南部落の旗頭がマ「ミン「ド[maˈminˈdoː] (道路の名)に集まり、「サン「ケー「[saŋˈkeiː] (棧敷)を作って部落の長老らが座し、そこで綱引きが行なわれた。

ティ「ラ [tiːra] (名) 寺。竹富島には「喜宝院」という寺がある。檀家組織をもたない寺であるという。真言宗。

ツ「サーフ [sˈsaːɸu] (名) 仕事。

シ「マ「ヌ 「ガッ「コユ 「ヘーグサラ ベンキョー シッティー「 ソ「ツギョー シッティー ハイ「サ ツ「サーフ「 フ「ク「ヨニー シレー [ʃiˈmaˈnu ˈgakˈkojuː ˈheːgusara beŋkjoː ʃittiːˈ soˈtsugjoː ʃittiː haiˈsa sˈsaːɸu ɸɸˈkuˈjoːni ʃireː] (島の学校を、うんと勉強して、卒業して、早く仕事に就くようにしなさい)

ツ「サ「カイヨ 「[sˈsaˈkaijoː] (句) 下草を刈れ。

草刈りが大切。七回草を取ると立派に実る。ツ「サ「ヤ ナ「ナ「シウ「トウ トウ「リ [sˈsaˈja naˈnaˈʃiūtu tuˈri] (草は七回取りなさい。除草しなさい)。

ツ「シャイ「ウ「スー [ʃˈʃaiˈuˈsuː] (名) 「精げ臼」の義か。松の大木の幹を用いて作った臼。穀物を搗いて精げるのに用いる農機具。玄米を入れて堅杵や大槌で搗いて精米するのに用いる。

ツ「シャルン [ʃˈʃarʊŋ] (動) 申し上げる。「知らす」の義か。謙讓の意をあらわす。「知らせる」の義か。「ニン「トウ ツ「シャリレー「[ninˈtu ʃˈʃarireː] (年頭の挨拶を申し上げなさい)。ツ「シャリシター「 [ʃˈʃariʃiːtaːˈ] (申し上げた)。「ワーヤ メー「ダトウ「シ「 バカサリヤー 「バー ツ「シャリ ウリヤー 「ワーヤ「 ツ「シャルナー [ˈwaːja meːˈda tuˈʃiː bakasarijaː ˈbaːˈʃariurijaː ˈwaːˈ ja ʃˈʃarunaː] (君はまだ年若いから、若くしているから、君は申し上げるな)

ツ「シェー「 [ʃˈʃeː] (名) 女の子。子女。

マ「リル ファー「ヤー ツ「シェー「ヌドゥ マリ「ラー [maˈriru ɸaːˈjəː ʃˈʃeːˈnudu mariˈraː] (生れる子は、女兒が生れるね)

ツ「タ「ティ [tˈaˈti] (名) 醤油。「下地」の音韻変化したもの。ツ「タ「ティヌ コージヌンバシーダ「ルー「[tˈaˈtinu koːdʒi numbaʃiːdaˈruː] (醤油用の麴をたててある。～を寝かせてある)。シ「タ「ティ [ʃiːˈtaˈti] (下地。醤油) は、ツ「タ「ティ [tˈaˈti] (下地) の丁寧な発音。

トウ「ク [tuˈku] (名) 仏壇。

トゥ「シヌユー [tu^oʃinuju:] (名) 大晦日。1年の最終の日の夜。おおつごもり。「歳の夜」の義。昔はトゥ「シヌユー[tu^oʃinuju:]によくフル^oマイ[ʃu^oru^omai] (饗応。御馳走)をやった。今は本土式になって、「年越しそば」を食べようになった。トゥ「シヌユーには家族揃ってフル^oマイを食べ、静かに寝ていい夢をみるのが楽しみであった。「除夜の瞳」を聞くことはなかった。夜遅くまで起きて凧作りなどをして過ごした。

トゥ「シビ [tu^oʃibi] (名) 消滅した行事。健康祈願祭か。

トゥ「ジブトゥバー^oー^oリ [tu^odʒibutuba^o:^ori] (名) 離婚。

「妻夫分かれ」の義。トゥ「ジブトゥ^o バー^oリッ^oタ^oトゥ^oー[tu^odʒibutu ba:rit^ota^otu:] (夫婦が離別したそうだ)。

トゥ「ヌ^oイム^oトゥ [tu^onu^oimutu] (名) お嶽を管理している場所。分神が祀られている。そこで祈願が行なわれ、豊年祭のトゥ^oドゥ^oミ[tu^odu^omi] (終了、完了の行事)が行なわれる。

トゥ「ムイ^oウ^oヌシ [tu^omui^o?u:nufi] (名) 竹富島の種取祭に演じられている組踊名。玻座間部落の組踊の名。毎年演じられている。仇討物。その他「忠臣身替り」などもある。

トゥ^oル^oッ^oキ [tu^oruk^oki] (名) 「取り決め」の義か。種取祭のトゥ^oル^oッ^oキ。

トゥ^oル^oッ^oキ[tu^oruk^oki]の語義は、「約束」の義という。「しっかり約束せよ」の意味。野良に牛をトゥ^oリ^oヒ^oキ^oリ^oー[tu^ori^oçi^oki^ori:]と言ったり、トゥ^oル^oッ^oク^oナ^oー[tu^oruk^oku^ona^o:]と言ったりする。「牛を逃がさぬよう、しっかり縄を木に縛っておきなさい」という。「シュー^oイ シェール 「マ^oン^oダ^oー シー^oッ^oタ^oン^oティ^oン タ^oナ^oドゥ^oイ 「ス^oナ^oー^oッ^oタ ナ^oラ^oヌ[ʃu:^oi ʃe:ru^o manda^o ʃi:^ottantin ta^ona^odui^oja^o suna:t^ota na^oranu] (忌中でも、この種取祭はしなければならない)「シュー^oイ ペ^oー^oユ 「コー^oシ^oッ^oティ ヤ^oラン タ^oナ^oドゥ^oイヤ 「ス^oナ^oー^oッ^oタ ナ^oラ^oヌ^oー[ʃu:^oi pe:ju^o ko:fit^oti jaran ta^ona^odui^oja^o suna:t^ota na^oranu:] (忌中の法事《不祝儀の拝事》を越してでも種取祭はしなければならない) トゥ^oル^oッ^oキには、先ず余興をする人を決め、使役(祭事に働く人)を決める。余興には、庭の芸能と神座の芸能がある。

「トゥ^oン^oジ^oヌ^o・カ^oン [tundʒinu-kaŋ] (名) 屋敷の神。「キュー^oヤ 「トゥ^oン^oジ^oヌ^o・カ^oン^oニ^o 「ガイ[kju:^oja^o tundʒinu-kan^onu niŋ^ogai] (今日は屋敷の神様への祈願です)「ナ^oー^oッ^oキ^oヨ^oイ [na:kki^ojoi] (名) 11月祭り。各御嶽の氏子たちによって銘銘の御嶽で行なわれる。公民館側からは、グ^oシ^oハ^oナ[gu^oʃihana] (御酒、初米)を供えるという。

「ナ^oー^oジ^oカ^oイ^oカ^oン [na:dʒi^okaikaŋ] (名) 仲筋部落の会館。集会場。

「ニ^oシ^oト^oー^oタイ^oサイ [niʃito:taisai] (名) 旧暦6月3日、4日に行なわれる祭祀。西唐

大祭。西唐御嶽で司が一晩、夜籠りして祈願する。みずのえ（壬）の日に行われる。

「ニン^ニガ^ニチ 「[niŋⁿⁱgaⁿⁱtʃi] (名) 二月。

「ニンガチカザマイ 「[niŋgatʃikadzamaⁿⁱ] (名) 旧暦2月頃、急に風向が変わり、時化となること。北風が吹き荒れること。「二月風回わり」の義。「ニン^ニガチカザマイヌ キー^ニドゥ^ニリヤー 「チューイ スナーッ^ニタ ナ^ニラヌ「[niŋⁿⁱgatʃikadzamai nu ki:ⁿⁱduⁿⁱrija:ⁿⁱtʃui sunatⁿⁱta naⁿⁱranu] (二月の風回わり時化が来ているので、注意しないとけない)

「ニントウ 「[nintu] (名) 年頭の挨拶。「年頭」の義か。元日の朝、家長から家族に対して述べられる寿ぎの言葉。親族、友人間でも交わされる。「ニントウ^ニ ッ^ニシャリレー^ニ 「[nintuⁿⁱ ʃⁿⁱʃarire:] (年頭の挨拶を申し上げなさい)。「バン^ニダヤー 「ニン^ニトロー^ニ ッ^ニシャリシタ^ニ 「[banⁿⁱdaja:ⁿⁱninⁿⁱto:ⁿⁱʃⁿⁱʃariʃitaⁿⁱ:] (私たちは年頭の挨拶を申し上げた)。「ハイ^ニサ 「ニン^ニトロー^ニ ッ^ニシャリリヤー^ニ 「[haiⁿⁱsaⁿⁱninⁿⁱto:ⁿⁱʃⁿⁱʃaririjaⁿⁱ:] (早く年頭の挨拶を申し上げなさい)

「ニントウ^ニ ッ^ニシャリル ヒトドゥ^ニ ホー^ニラサール^ニユー^ニ 「[nintuⁿⁱ ʃⁿⁱʃariru ɕitudu ho:ⁿⁱrasa:ruⁿⁱju:] (年頭の挨拶を申し上げる人が多いです)

「ニンブチャー 「[nimbutʃa:] (名) 念仏者。世襲の家で、人が死ぬと「ニンブチャーが鐘を持参して、その家でずっと鐘を叩いた。これで村人に葬式のあることを知らせた。葬式の時は、「ニンブチャーは最後尾に居て道道ガンガンと鐘を叩いた。墓の掃除も部落の人が皆で手分けして当った。

「ネーレーカンドウル 「[ne:re:kanduru] (名) 種取祭を創始した神様といわれている。「ネ^ニレー^ニという家に祭られている。ハ^ニナック^ニク「[haⁿⁱnakⁿⁱku]村のトゥヌイムトゥは旭氏の家である。

「ハー^ニマイ 「[ha:ⁿⁱmai] (名) あずき (小豆)。「赤豆」の義。12月の末頃から蒔きはじめ、一月頃までに蒔き終えた。

「バー^ニリキー 「[ba:ⁿⁱriki:] (連) 帰った来たもの。「出戻」のこと。

トゥ^ニナイヌ カン^ニチェーヤ トゥ^ニジプトゥ バー^ニリドゥ 「カイ^ニリ^ニキー^ニセー 「[tuⁿⁱnainu kanⁿⁱtʃe:ja tuⁿⁱdzibutu ba:ⁿⁱriduⁿⁱkaiⁿⁱriⁿⁱki:ⁿⁱʃe:] (隣家のカンチェーは夫婦離別して帰ってきているよ。「出戻」である)

「バイ^ニヤー 「[baiⁿⁱja:] (名) 御嶽《お願》の名。

ハ^ニナック^ニクオン「[haⁿⁱnakⁿⁱku?on] (玻名城御嶽)より東の方へ行った所にあるハ^ニリワカ「[haⁿⁱriwaka]という氏神といわれている。トゥ^ニヌイ^ニム^ニトゥ^ニ 「[tuⁿⁱnuiⁿⁱmutu]はア^ニラ^ニヤー^ニ 「[aⁿⁱraⁿⁱja:]という家になっているという。

「バン^ニダーヤー 「バイヤーヌ オン^ニビー ッ^ニシェー 「[banⁿⁱda:ja:ⁿⁱbaija:nu ?omⁿⁱbi:ⁿⁱʃe:] (私たちは バイヤー御嶽の氏子だよ)

バ「キトウルン [ba「kituruŋ] (名) 長方形の膳。祭祀用の供物を運ぶのに用いる。巾約40センチ、長さ約60センチ。高さ約5センチの長方形のお膳。祝儀や村の祭祀に必要な供物の一式をとり揃えて運ぶのに用いる膳のこと。

「バ「ジャオン [「ba「dʒaʔoŋ] (名) 御嶽の名。

ハッ「カ [hak「ka] (名) 墓。墓地。亀甲墓。

ハッ「カユー「 ウ「ガ「イ 「クー[hak「kaju:「 ʔu「ga「i「ku:] (墓を拝んできなさい)。

ハッ「カ「 ウ「ガ「イ「ナードゥ ハ「リ「ッ「タラー[hak「ka「 ʔu「ga「i「na:du ha「rit「tara:] (墓を拝みに行ったのかなあ)。

バッ「タ「イロ「 [bat「ta「iro「] (名) ねんねこ。「綿入れ」の義。「ウヤッタラー「 バッ「タ「イロ「 ッシハリヤー「[ʔujattara:「 bat「ta「iro:「 ʃʃiharija:] (上から綿入れ《ねんねこ》を着て行きなさい)。

ハ「ナッ「クヌ・トウヌイムトウ [ha「nak「kunu-tunimutu] (連) ハ「ナッ「ク一族の信仰する神を祀り、管理しているところ。その家。旭氏の家で祀られているという。

「パフ「キー「[paɸu「ki:] (名) 煙草の吸い殻を入れる竹筒。煙草盆に据え付けてある竹筒の吸い殻入れ。「パフキナー「イ タ「ブ「ヌ フ「ケ「ル アトー イ「リ「リヤ「 [paɸuɸkina:「i ta「bu「nu ɸu「ke「ru ʔato: ʔi「ririya:] (竹筒に煙草を吸った後の吸い殻を入れなさい)。

ハ「マウリ [ha「mauri] (名) 昔は、葬式のとき、葬列に参加した人は、いったん浜に降りて海水で足を洗い、身を清めてから帰宅したという。葬式から直接帰宅しなかったという。

ハ「ラ「イ「シ「トウ [ha「ra「i「ʃi「tu] (名) 妊婦。「孕み人」の義。ハ「ラ「イ「シ「トウ「ヌドゥ「ヤ「サ ミ「ラ「リ「チョ「ッ「ター[hə「ra「i「ʃi「tunudu 「ja:「sa mi「ra「ri「tʃot「ta:] (妊婦「孕み人」がたくさん見えるよ)

ハ「ラ「ウン [ha「ra「uŋ] (名) 妊娠する。「はらみ」(はらみ)の義。孕むこと。ハ「ラ「イ「ドゥ「ル「 [ha「ra「i「du「ru:] (妊娠している。孕んでいる)。ハ「ラ「イ「ドゥ「ダ「 [ha「ra「i「du「da:] (妊娠しているよ。孕んでいるよ)。「メー「ダ ハ「ラ「ヌ「 [me:「da ha「ra「nu:] (また孕まない) ハ「ラ「ウ「スニ「ヤ「ッタ ハ「タ「 「フー「シャ「ナリドゥ「ン ナッ「ティヤ「 [ha「ra「u「suni「jatta: ba「ta:「 ɸu:「ʃa「nari「dun nattiʃə:] (孕んだら腹が大きくなる)。バ「ナ「ヤランバー ハ「ラ「イ「スー トウ「ナリヌマイチェー「マー ハ「ラ「ウ「ン「ドレー「 [ba「na「jaramba: ha「rai「su: tu「narinu maitʃe:「ma: ha「ra「u「n「doire:] (私でも妊娠するのだから、隣のマイチェー「マーも妊娠するよ)。ハ「イ「サー ハ「ラ「イー ム「チ「シ「ティ「 「ファー「 ナ「サー「ハドゥ「ナリ「ヤ ハ「イ「サー 「ファー「ユ「 ナ「シ「[hai「sa ha「ra「i: mu「tʃi「ʃi「ti: ɸa:「na「sa:「hadu nari:ja「hai「sa:「ɸa:ju「na「ʃi] (早く妊娠して子供を生んだ方がよいので、

《生まないといけないから》早く子供を生みなさい)

バ^リビ^ル [ba^{ri}bi^{ru}] (名) にんにく (大蒜) が発芽すること。「ピ^ン [piⁿ] (大蒜) が発芽することを祈願することを、バ^リビ^ルヌ・ニ^{ガイ} [ba^{ri}bi^{runu}nigai] (大蒜発芽の願い) といい、種取祭の第一日目の行事は大蒜が発芽することを祈願する儀式という。

バ^リビ^ルヌ・ニ^{ガイ} [ba^{ri}bi^{runu}nigai] (名) 種取祭の第一日目に、大蒜の発芽を祈願して行なわれる儀式。六時頃から始まり、第二日目はマ^ミナ [ma^{mina}] (もやし) の祈願。これをム^イム^イヌ・ニ^{ガイ} [mu^{imu}inu-nigai] (もやしの祈願) という。

ハ^ンツ^メ [hantsume] (名) 「ジ^ーキ^ョン^ギンの中に出てくる「イ^モ (芋) の願い」のこと。「ハ^ンツ^メヌニ^ンガ^イ [hantsume nu ningai]ともいう。

ピ^ーナ^サン [pi^{enasan}] (形) 貧しい。貧乏である。「ノ^ーシ フド^ウン^バーンヤ^ーヌ ピ^ーナ^サリヤ ウヤ^ッタヌ ガ^ッコ^ーイ^ヤー ハ^ラサル^ヌー [no^{si} fudounbanjayanu pi^{enasarija} u^{yattanu} gakkoi^{ya} harasaru^{nu}] (いくら成長しても、家が貧乏だから、上の学校へはやれない)

ピ^ーヌ・カ^ン [pi^{nu}kagan] (名) 火の神。竈の神様。「ピ^ーヌカ^ンヌ ニ^ンガ^イ [pi^{nu}kannu ningai] (火の神への祈願、竈神の祈願)。火の神は竈の後に石を三個安置して拜む。海の石、山の石、野原の石の三個を揃えて、その前に香炉を置いた。子供が生まれたら鍋釜の墨、鍋墨を子供の額につけた。ム^ムツ^{チャ} ヒ^キ [mu^{mut}tsu^{cha} hiki] (百歳付け) という。

ピ^ーヤ^チ [pi^{ya}tchi] (名) 煙草盆の火入れ。「ひ^ばち (火鉢)」の義か。小さな火鉢。「ピ^ーヤ^チナ^ー 「ピ^ー ト^ウリ^クー [pi^{ya}tchin^{na} pi^{turiku}] (火鉢に火を取って来い) 「ピ^ー イ^リレー 「アイ^ラド^ウ タ^ブヤ フ^カイ^ルー [pi^{irire} ai^{radu} tabuya fukai^{ru}] (火を入れなさい。そうしたらこそ煙草は吹かれる《吸われる》)。

ヒ^カシ^マー^シ [hikasimashi] (名) あやすこと。「な^だめ^すか^す」の義。「ナ^ーサンヨ^ーシ ヒ^カシ^マー^シ シ^リヤ^ー [nasanjoshi hikasimashi shiriy^a] (泣かさぬよう、あやしなさい)

ヒ^カナ^ウン [hikanauⁿ] (動) 育てる。養う。養育する。「ビ^ドーン^ファ^ーヤ ヒ^カナ^イヤ^ッサ ダ^ルー [bidounfay^a hikanaiyassa daru^u] (男の子は育てやすい)。「コ^ーネ^ーヤ 「デ^ージ^ッテ^ィ ヒ^カナ^イヤ^ッサ^ーン [konen^{eya} de^{zittei} hikanaiyassanⁿ] (男児は育てやすい)

ヒ^キダ^チ [hikidat^{chi}] (名) 朔日。月の第一日。「月^立」の義。「ザ^ート^ウク [dza^{toku}] (床の神) を拜む日。旧暦のヒ^キタ^チと「ジ^{ュー}ゴ^ニチ [dzugonit^{chi}] (十五日。月の半ばの日) に床の神を拜む。

ヒククイ [çi'ku'i] (名) 種取祭の余興のリハーサル。試演会。舞台総稽古。竹富島の種取祭は、本番の三日前の日に行なわれる。「仕組み」の義より転じたもの。

「キューヤ ヒククイ トゥー [kju:'ja çi'ku'i'tu:] (今日は試演会だそうだ)。「キューヤ ヒククイ シルンテラー [kju:'ja çi'ku'i: firunte:'ra:] (今日はリハーサルをするよ)

ヒトゥダーヌドゥ [çi'tuda:~nu'du] (名) ひとだま (人魂)。ヒトゥダーヌドゥ タチトゥー [çi'tuda:~nudu ta'tfitu:] (人魂が立つそうだよ)。

ヒツトゥ・ナンカ [çi'tu'nan'ka] (名) 第一七日忌。フタ・ナンカ [fu'ta'nan'ka] (第二七日忌)。「ミー・ナンカ [mi:'nan'ka] (第三七日忌)。「ユー・ナンカ [ju:'nan'ka] (第四七日忌)。「イチ・ナンカ [i'tfi'nan'ka] (第五七日忌)。「シーナンカ [si:'nan'ka] (第六七日忌)。「シンジュク [ɕindzuku:] (四十九日忌)。「チャーク・ニチー [ça:'ku-ni'tfi:] (第百日忌)。「ユヌリヤー [ju'nurja:] (一年忌)などの法事がある。

「チャークニチー [ça:'kuni'tfi:] (名) 百日忌。人が死亡して後、百日目に当る命日にとり行われる法事。

「ピヤチ [pijatʃi] (名) ひばち (火鉢)。陶器に灰を入れて炭火などをおこし、体を温めるのに用いた一種の暖房器具。

「ピューイ [pju:'i] (名) ひより。(日和)。よい天候。よい日。神事や仏事をとり行うのに適した日。

「キューヤー・ジョー トヌ ピューイデン ナツティヤー [kju:'ja: 'dzo:tonu pju:iden nat'ti'jə:] (今日は、いい日になった)。

「ピューイ トゥリー [pju:i turi:] (ひよりをとる。占って良い日を決める。日選りする)。

ピルユル [pi'ru'juru] (名) 凧揚げに用いる糸。細い糸。芭蕉の上皮のウツカバシヤ [ʔuk'ka'bafja] (糸芭蕉の上皮の繊維)を母親にねだって貰い、学校の休み時間などを利用して、それを木の枝につるし、縋りあげて作った細い縄。こより。

「ピン [pi'ŋ] (名) にんにく (大蒜)。にんにく (大蒜) やもやしは、発芽する時期を自ら知っている」という。軒につるしておいても時がくれば水だけで、自然に発芽するからという。ピンは生命力が強く、畑に肥料を入れなくても育つといわれ、七回草取りさえすれば完全に立派な実ができるという。

ツサ カイヨー [s'sa'kaijo:] (草刈りが大切)。

「ピンガン [piŋgan] (名) 彼岸。春分・秋分の日。各家で先祖供養を行なう。仏事的一种。「ピンガンムチ [piŋgam'mutʃi] (彼岸餅) を作り、御重にカマボコ、煮物

などを詰めて供える。

「ピン^ㄊガンヌ・ム^ㄊチャー^ㄊ [ˈpiŋ˥˥ɡannu-mu˨˨˦˥˥tʃa˨˨˦˥˥] (連) 彼岸祭の際に作る餅。小さく握って作った餅。中にグ^ㄊマ [gu˨˨˦˥˥ma] (胡麻) の餡や麦の餡を入れて作った。

「ファームリ^ㄊ・ウ^ㄊタ [ˈfa:muri˨˨˦˥˥-ʔu˨˨˦˥˥ta] (名) 子守り歌。「ファームリ^ㄊウタ ヒカシッティー 「ヌバサードウ ヘゴサラ ジョー^ㄊトーニ ヌンビヤー 「ファームリ^ㄊウタ アンジ ヒカシュー [ˈfa:muri˨˨˦˥˥uta ɕi˨˨˦˥˥kafiti˨˨˦˥˥: ˈnumbasa:du he˨˨˦˥˥gosara dʒo˨˨˦˥˥:˥˥to˨˨˦˥˥ni numbija˨˨˦˥˥: ˈfa:muri˨˨˦˥˥uta ʔandʒi ɕi˨˨˦˥˥kafɛ˨˨˦˥˥:] (子守り歌を聞かせて寝かすと、よく寝るから、子守り歌をうたって聞かせなさい)。

「フイ [ˈɸui] (名) ひえ (稗)。イネ科の植物。種子は三角形の細い粒で食用となる。荒地にもよく生育するので、田地のない所で栽培された。「フイヌ^ㄊ・ムチ^ㄊ[ˈɸuinu˨˨˦˥˥-mutʃi] (稗で作った餅)。

「フイヌ^ㄊ・ムチ [ˈɸuinu˨˨˦˥˥-mutʃi] (名) 稗の餅。稗の実を煮て作った餅。

「プイ [ˈpui] (名) 豊年祭。旧暦6月13日～14日(新暦7月10日・11日)に行われる神行事。竹富島では、豊年祭は他島のように派手にはしないという。六ヶ所のお嶽(お願)の司と氏子が決まっているから、氏子がお嶽を支えている。部落の役職員が六ヶ所のお嶽を拝殿すると氏子は彼らを持って成す。ミ^ㄊチウタ [mi˨˨˦˥˥tʃiuta] (道歌) を歌って役職の人たちが来ると氏子らが出迎えて接待する。それで一日目は終わる。二日目はトゥ^ㄊヌ^ㄊイムトゥ^ㄊでトゥ^ㄊドゥ^ㄊミ [tu˨˨˦˥˥˥du˨˨˦˥˥mi] (終了、完了の行事)を行なう。「テー^ㄊドゥンヌ プイヤー 「テー^ㄊドゥンナーヤー 「ソーチヌオン^ㄊヌ アリーッティ 「ソーチヌオン^ㄊヌ ヒ^ㄊカサヌ^ㄊ オリッティ マ^ㄊタ ウヌ ソーチヌ^ㄊ ヒ^ㄊカサヌ 「オン^ㄊビヌドゥ マ^ㄊタ ソレゾレ ソーチヌ オン^ㄊヌ 「オン^ㄊビヌ オリッティドゥ 「オン^ㄊビサーニ^ㄊドゥ ト^ㄊーッティ 「オン^ㄊユ ム^ㄊッチー プイ^ㄊナー^ㄊッキューヨイ 「シー^ㄊル^ㄊユー 「プイ^ㄊヤヤー 「キューヌ^ㄊ ル^ㄊク^ㄊガツヌ 「ジュー^ㄊサンニチハラ 「ジュー^ㄊヨッカス ミ^ㄊジヌヒヌ^ㄊ トウ^ㄊラトゥ ウー^ㄊヌ ヒーサーニドゥ 「シー^ㄊル^ㄊユー^ㄊ アイティ 「ナイチャーヤ^ㄊ トウ^ㄊヌイムトゥナー^ㄊイ トウ^ㄊドゥ^ㄊミヌ^ㄊ ニ^ㄊガイ^ㄊドゥ 「シー^ㄊティー^ㄊ ウ^ㄊワリル^ㄊユー。

「フー [ˈɸu:] (名) えんぎ(縁起)。「果報」の義。シ^ㄊトゥ^ㄊ〜ティ 「ビド^ㄊ〜ヌ オー^ㄊリッスヤー 「トート^ㄊー 「フー^ㄊヌ 「アン^ㄊメー [ʃi˨˨˦˥˥tu˨˨˦˥˥˥ti˨˨˦˥˥: ˈbi˨˨˦˥˥do˨˨˦˥˥nu ʔo˨˨˦˥˥:˥˥rissu˨˨˦˥˥jɛ˨˨˦˥˥: ˈto˨˨˦˥˥to˨˨˦˥˥: ˈɸu˨˨˦˥˥:˥˥nu ˈʔam˨˨˦˥˥me˨˨˦˥˥:] (朝、男の人が来られたからさあさあ、えんぎ《縁起》がいいぞ。《果報があるぞ》)。「ミー^ㄊド^ㄊ〜ヤ シ^ㄊトゥ^ㄊ〜ティ 「ットウヌ ヤー^ㄊイ 「ハッ^ㄊトゥ キ^ㄊラー^ㄊリドゥ ウリーヤ 「ミー^ㄊド^ㄊ〜ヤ ヒ^ㄊトゥヌ ヤー^ㄊイ ハン^ㄊナ (女は朝、他人の家へ行くのは嫌われているから、女は他人の家へ行くな)と言われていた。

フ^ㄊカンギ [ɸu˨˨˦˥˥˥kangi] (名) えんぎ餅の一種。十五夜の日を作る。米の粉に、「フイ

[φui] (稗) で作った餅を入れて作った餅。

「ジュン^ㄨグヤヌ ム^ㄨチャ^ㄨトウ フ^ㄨカン^ㄨギトウヤメー 「ジュン^ㄨグヤヌ バシユ
ヌ 「ピー^ㄨヌ マイヤッ^ㄨタ^ㄨナー カ^ㄨザルムヌデン ナッ^ㄨティヤー
[ʔdʒuŋ^ㄨgujanu mu^ㄨtʃa^ㄨ: tu φu^ㄨkaŋ^ㄨgitujame: ʔdʒuŋ^ㄨgujanu bafunu ʔpi:^ㄨnu
majat^ㄨta^ㄨna: ka^ㄨdzarumunuden nat^ㄨtijə:] (十五夜の餅とフカンギは、もう、十五夜
のときの火の神に供えるものだったよ)。

ブ^ㄨガ^ㄨリ^ㄨノー^ㄨリ [bu^ㄨga^ㄨri^ㄨno:ri] (名)「疲れなおし」の義。慰労会。畑仕事などの後
に飲食すること。

ブ^ㄨガ^ㄨリ^ㄨノー^ㄨリヌ グ^ㄨシ^ㄨ カミ^ㄨリ [bu^ㄨga^ㄨrino:ri nu gu^ㄨʃi^ㄨ kami^ㄨri] (疲れなおし
のお酒を頂戴しなさい)。ブ^ㄨガ^ㄨリ^ㄨノー^ㄨリ^ㄨ シラー [bu^ㄨga^ㄨri^ㄨno:ri ʃira:] (慰労会
をしよう)。

フ^ㄨタ^ㄨ・^ㄨナン^ㄨカ [φu^ㄨta^ㄨ-^ㄨnaŋ^ㄨka] (名)二七日忌。人が死亡して後、第二週目の命日
に行われる法事。

フ^ㄨト^ㄨイ [φu^ㄨtai] (名)ほとけ (仏)。仏像。

フ^ㄨト^ㄨイ^ㄨ ウ^ㄨガイ^ㄨヤー [φu^ㄨtui^ㄨ u^ㄨgai^ㄨja:] (仏様を拝みなさい)。フ^ㄨト^ㄨイ^ㄨ
ウ^ㄨガイ^ㄨヤー [φu^ㄨtui^ㄨ u^ㄨga^ㄨi:] (仏様を拝め)。

フ^ㄨト^ㄨイ^ㄨ ナ^ㄨリ^ㄨド^ㄨ 「ナッティ^ㄨヤー [φu^ㄨtui^ㄨ na^ㄨri^ㄨdu ʔnatti^ㄨja:] (《死者が何
年もたって》仏になっているよ)。

フ^ㄨド^ㄨン^ㄨブン [φu^ㄨdumbuŋ] (動)成長する。体が育つ。

「タンカーク^ㄨカサーニ 「カンディ^ㄨ フ^ㄨド^ㄨン^ㄨビッタ^ㄨチョ^ㄨター [ʔtaŋka:kuk^ㄨ
kasa:ni ʔkandi^ㄨ φu^ㄨdumbittat^ㄨʃot^ㄨta:] (誕生日が来るうちにこんなに成長したよ)。

フ^ㄨド^ㄨン^ㄨバナ^ㄨチョ^ㄨター [φu^ㄨdumbanut^ㄨʃot^ㄨta:] (成長しない)。フ^ㄨド^ㄨン^ㄨバード^ㄨ
ウ^ㄨイ^ㄨヌ ガ^ㄨッコ^ㄨイン^ㄨ ハ^ㄨヤー^ㄨサ^ㄨリド^ㄨ 「ラー [φu^ㄨdumba:du ʔuinu gakko:^ㄨiŋ
ha^ㄨja:sa^ㄨridu^ㄨra:] (《成長したならば上級学校へも行かせるのだぞ)。フ^ㄨド^ㄨン^ㄨバナ^ㄨ
ー [φu^ㄨdumbana^ㄨ:] (成長しなさいよ)。

フ^ㄨル^ㄨマイ [φu^ㄨru^ㄨmai] (名)大晦日の夕方、元旦の朝にいただく御馳走。お座敷で
いただく御馳走。「振る舞い」の義か。戦前は組を作って豚をつぶし、分け合って塩
漬けにし、保存して正月の御馳走に使った。残りは冬期を通して塩漬の豚肉を少量ず
つ切り取って食した。「ション^ㄨガチフルマイ [ʃoŋ^ㄨgatiʃiφurumai] (正月御馳走)
は待ち遠しいものであった。

「ブンガシャヌ^ㄨパー [buŋgaʃanu^ㄨpa:] (名)くわずいもの葉。「ブンガシャ
[buŋgafa] (くわずいも)お盆の三日目の「送り」(精霊送り)の日に、仏壇に供え
た供物のお初を少量ずつ取り入れて包み、先祖霊の土産とするのに用いた植物の葉。
ク^ㄨト^ㄨシヌ ショ^ㄨー^ㄨロー^ㄨヤ 「ブジニ^ㄨ ッ^ㄨカシャイ ミッカカン ヒコサラ^ㄨ ッ^ㄨ

カ^ナリオリ ミーハイ^ユ マタ 「エン^ヌ 「ショ^{ロー}」^ヌ ブッ^カナイヤー
ヌーサラ 「ガン^{ジュ} シーオーリテイ ファ^{マー}ユー ミ^マモーリト^ー「リ」
トゥーサヌ カルイ ナ^ーサヌ カルイ カ^ルイ^シキオー^ー「リ^ー (今年の精霊 (お
盆)は無事に家に案内され、三日間養われ、孝養されていたき、ありがとうございます。また来年のお盆の養いはずっと健康 (頑丈) であられて、子や孫を見守って下
さい。遠方からの嘉例、長さの嘉例をお祈り下さい) と唱えて精霊送りをするという。

「ボ^ーレダーリ [bo:ˈreda:ri] (連) よかったねえ。「ボ^ーレダーリ ン^マサル^ニヌ
「ヤ^ーサ ッ^コレスヌ^シェー [bo:ˈreda:ri mˈmasaruːˈnu ˈja:ˈsa
kˈko:resunuˈje:] (よかったねえ、おいしいものをたくさん作ってあるねえ)。

「マ^ーシュ^ウサイ [ma:ʃuˈʔusai] (名) 床の間に供える塩。塩の盛りつけ。シ^ルマ^ー
ーシュ 「カ^イマ^ーシュ 「カ^イマ^ーシュ カザレー [ʃiˈruˈma:ʃu ˈkaiˈma:ʃu ˈkaiˈ
ma:ʃu kadzare:] (白い塩、美しい塩を供えさい)。ク^トウシャ^ー ミ^{ード}ウシヌ シ
ョ^ンガチユ ンカ^イ マ^{ター} ヤ^ーニンジュ キ^ナイニンジュ^ー タ^ビナ^{ブル}
「フ^ァー^ヌメ^ン 「ケ^ーラヌ 「ケン^{コー} ア^{リー}ヒ^{ティ} ク^ヌ イチネン^{ジュ}
ーヤ イ^ーク^トウ^{パー}イ 「アルカ^シト^ー「リ^ー [kuˈtuʃija: mi:duʃinu ʃoŋˈgatʃiju
ŋkai maˈta ja:ˈnindzu kiˈnainindzuˈ taˈbinaˈburu: ˈɸa:ˈnu me:ŋ ˈke:ˈranu ˈkeŋko:
ʔari:ˈçiti: kuˈnu ʔitʃinendzu:ja ʔi:ˈkutuˈba:ˈi ˈʔarukaʃiˈto:ˈri:] (今年は新年の正月を
迎え、また家族、家内の皆、旅にいる子供たちも、みんな健康であって、この一年中
は善いことばかりあらしめて下さい) と祈願する。その後「マ^ーシュ^ウサイをいた
だいた。

「マ^ーツタ [ma:tt̩a] (名) 桶の上に十字に組んだ台木で、石臼を載せるのに用いるも
の。豆腐や餅を作る際に大型の桶の上に 「マ^ーツタ [ma:tt̩a]を^は嵌め、その上に石
臼を載せて、一晩水に漬けた大豆や糯米を碾くのに用いた。

「マ^ー「リヤ [maːˈrja] (名) 毛毬。鞠。昔はソテツ (蘇鉄) の花 (毛状のもの) で
鞠を作った。 「タ^イ「ワンハラドゥ グ^ム「マ^ーリヤヌ 「キ^ー「シェ^ー
[taiˈwaŋharadu guˈmuˈma:rjanu ˈki:ˈje:] (台湾からゴム鞠は来たのだ)。正月には
女の子は道で毬つきをして遊んだ。

「マ^クシャハリ [makuʃahari] (名) 種取祭の舞台余興の行われる三日前にその作業が
行われる。「テント張り」のこと。「幕舎張り」の義か。昔は タ^ルルッキ [taˈrukki]
(垂木)、トゥ^マ「マー [tuˈma:] (苫)、すすき (薄)、船の帆などを掲出して、張った。
材料はすべて割当て制であった。縄も割り当てた。

マ[「]ジュ^ニヌ [maˈdʒuːˈnu] (名) ゆうれい幽霊 (化け物)。「蟲物 (まじもの)」の義。
災厄が人に及ぶようになる霊。魔物のこと。 マ[「]ジュ^ニヌヌ キ^ドウ ウ^リーヤ
ウナー 「サン^ユー ユ^イウ^キー [maˈdʒuːˈnunu kiˈdu ʔuri:ja ʔuna:ˈsapˈju

juiu¹ki:] (悪霊(まじもの)が来ているから、そこに魔除けのサンを結っておきなさい)。ヤ¹ナ マジュ[~]ノ [ja¹na madzũno:] (他人を罵って、「悪霊ものめ!」という)。

マ¹タ¹ダビ [ma¹ta¹dabi] (名) 洗骨すること。一度埋葬し、3年または7年目に洗骨する。埋葬した骨を取り出してきれいに洗い、骨瓶に納めて亀甲墓に納める。現在は火葬にする人が多い。

マ¹ミナ [ma¹mina] (名) もやし。ク¹マ¹イ [ku¹ma¹i] (緑豆) を原料として作られる。豆粒を水に浸して発芽させたもの。白色で食用に利用される。「ムイムイ [muimui] (もやし) ともいう。

マ¹ミン¹ドー [ma¹min¹do:] (名) 道路の名。河上家の前の十字路のこと。昔は十五夜の日、そこで綱引きの行事が行われた。「サン¹ケー [saŋ¹ke:] (棧敷) を設けて部落の長老や司たちが座し、綱引きの行事を参観したところ。綱引きは、東と西に分かれて引いた。

マ¹リルン [ma¹riruŋ] (動) 生れる。子供が生れる。「ファー¹ヌドゥ マ¹リシター [fa:¹nudu ma¹riʃita:] (子供が生れた)「メ¹ダ マ¹ルヌー [me:¹da ma¹runu:] (まだ生れない)、マ¹リルン ファー¹ヤー ッ¹シェ[~]ドゥ マ¹リラー [ma¹riru fa:¹jə: ʃ¹ʃe:¹du mari¹ra:] (生れる子は、女の子が生れるね)。「コー¹ネーヌ マ¹リスニヤッター 「ヨイ¹ シ¹ルン¹ティ ウイッカサーニドゥ 「コー¹ネーヤ マ¹ルナー ッ¹シェ[~]ヌ マ¹リ¹チョッ¹ター [ko:¹ne:nu marisunijatta: ʃ¹joi¹ si¹run¹ti ʔukkaisa:nidu ko:¹ne:ja manuna: ʃ¹ʃe:¹nudu mari¹tʃot¹ta:] (男児が生れたら祝いをしようと思っていたのに男児は生れずに、女児が生れたよ)。

マ¹ン¹サン [man¹saŋ] (名) 満産、出産祝い。「キュー¹ヤー 「マンサンヨイ ティ¹ラー 「アイ¹ティ 「ナーヤ ノー¹ッ¹ティドゥ ヒ¹ケーリヤー 「ハー¹ウジヌドゥ メーヤー マ¹ッ¹チュー¹ティドゥ ヒ¹ケールー¹ ガ¹ッ¹コー¹ヌナーヤー 「シンユーティドゥ¹ ヒ¹ケールー [kju:¹jə: ʃ¹mansaŋjoi tei¹ra: ʔai¹ti¹ na:ja no:t¹tidu ɕi¹ke:rija:¹ ʃ¹ha:¹udzinudume:jə: mat¹tʃu:¹tidu ɕi¹ke:ru:¹ gak¹ko:¹nu na:jə: ʃ¹ʃinju:tidu¹ ɕi¹ke:ru:] (今日は出産祝いだそうだね。それで、名前は何とつけた?先祖様の名(童名)は、マ¹ッチュ(松)とつけました。学校の名は親雄とつけました)。

ミ¹ー¹・ナンカ [mi:¹naŋka] (名) 三七日忌。人が死亡して後、三週目の命日にとり行われる法事。

ミ¹ジヌハチ [mi¹dʒinuhatʃi] (名) 若水。「水の初」の義。正月の元日の朝、若水で洗顔すると長寿になるといわれていた。

ミ¹ジヌハチユー¹ フニ¹クー [mi¹dʒinu hatʃiju:¹ ʃuni¹ku:] (水の初《若水》を汲んできなさい)。最初に若水を汲むとき、未明に家を出て、井戸の中に小石を三個投

げ入れ、水の神を起こし、その後水に汲んだという。この習俗は大正期ごろまであったという。

ミ「シャク」 [miʃaʔku] (名) 御嶽で神前に供える酒。どぶろく (濁酒)。米を一晩水に漬けてふやかし、石臼で碾き、発酵させて作った。昔は健康で若い女性が米を噛んで出したものを発酵させて作ったという。菌を塩できれいに磨かせて米を噛ませたという。

ミ「ジンゴイ」 [miʔdʒiŋgoi] (名) 水肥。豚舎から出る汚水を肥料として用いるもの。

ミ「チンザシ」 [miʔtʃiʔndzafi] (名) 「道出し」の義。新生児が生まれて1週間たつと祖母が新生児を抱いて、弓の矢と「カーヌピー」 [ka:nupi:] (古着を裂いて縛った縄につけた火。「皮の火」の義か) をつけて、親類門中を回り、先祖を拜ませる儀式。ク「ニンブ」 [kuʔnimbu] (九年母。シークワサー) の小枝、弓矢、「カーヌピー」を持って親類門中を回る。

「ミツカミー」 [mikʔkami:] (名) 葬式後三日目に墓参りして死者の名を呼ぶ儀式。死者の復活を祈って、その名前を大声で呼ぶという。墓前に水を供え、供物を供えて名前を呼ぶ。

「ムイジル」 [muidʒiru] (名) 消し炭。まきの^{おき}燠を消した炭。「ムイジルユー」 トウリー カ「クン」グ シー ウ「キー」 [muidʒiruju:ʔ turi: kaʔkuŋʔgu ʃi: ʔuʔki] (消し炭を取って格護しておきなさい。大切に保存しておきなさい)。「ムイジルユー」 トウリー カ「クン」グ シー ウカードゥ ア「トゥー」ラ「ン」 ヒ「カー」イリヤ「ー」 [muidʒiruju:ʔ turi: kaʔkuŋʔgu ʃi: ʔuka:du ʔaʔtu:ʔraŋ ʃi:ka:rija:ʔ:] (消し炭を取って保存しておくよ、後からでも使えるよ)。

「ムイムイヌ・ニガイ」 [muimuinu-nigai] (名) もやしの祈願。種取祭の第2日目に行われる儀式。「ムイムイ」 [muimui] (もやし) は一般的に。ク「マ」イ [kuʔmaʔi] (緑豆) で生産された。

ム「ク」ー「ジャ」 [muʔkuʔ:ʔdʒa] (婿)。花婿。ム「ク」フー「ジャ」 [muʔkuʔʔu:ʔdʒa] (婿) ともいう。

ク「ヌ」 ヒトウドゥー バナ「ー」 ム「ク」ユー [kuʔnu ʃitudu: bana:ʔ: mukʔkuju:] (この人が私の婿です)。

ム「チ」 [muʔtʃi] (名) もち (餅)。糯米を一晩水に漬け、石臼で碾き、布袋に入れて水分を切ったものを成形して芭蕉の葉で包み、蒸籠に入れて蒸しあげたもの。祝儀や法事などに応じた形や色の餅を作った。

ム「チ」ドウ「トゥー」 [muʔtʃiʔduʔtu:] (連) 妊娠している人。妊婦。 トウ「ナイ」ヌ「カ」 「メ」ー「ヤー」 ムチドゥウ「トゥー」 [tuʔnainuʔ kaʔme:ʔja: muʔtʃiʔdutʔtu:] (隣のカメさんは妊娠している)。パッ「タ」ヌドゥ 「メ」ー「ダ」 ミ「ラ」ルン「チョー」

[bat^hta^hnu^hdu^h me:^hda mi^hra^hrun^htʃo:] (おなか《腹》がまだ見えないんだよ。「妊娠の徴候がまだ見られないんだよ」の意)。ハ^hイ^hサー ム^hチ^hシティ 「フアー ナサー^hハドゥ ナ^hルー [hai^hsa: mu^htʃi^h ʃiti: ʔa: nasa:^hhadu na^hru:] (早く妊娠して子供を生まないといけない)。

ム^hツ^hコガヨイ [muk^hkogajoi] (名) 婿通い。戦前までは、最初の子供は妻の里で出産した。新生児がある程度発育した後(約6ヶ月後)、吉日を選んで夫の家に連れて行った。その間、婿は妻の実家に通い、妻の家の農業や家業を手伝った。旧暦12月の大晦日の晩は日を選ぶ必要がないといわれていた。

ム^hヌクヤー [mu^hnukuja:] (名) 「もの乞い」の義。乞食。竹富島には乞食はいなかった。ハ^hタラナー^hツ^hター ム^hヌ^hクヤー ナ^hルン^hド^hー [ha^htarana:^htʃa: mu^hnu^hkuja: narun^hdo:] (働かないと乞食になるぞ)。

ム^hム^hツ^hチャヒキ [mu^hmut^htʃa^hiki:] (名) 「百歳付け」の義。新生児の額に鍋墨を付け、火の神に百歳の長寿を祈願すること(儀式)。新生児の祖母が付けた。

ム^hルン [mu^hrug] (名) もろみ(醪)。醸造する前の酒のもと。麴を発酵させてアルコール分を発生させた液体で、酒粕の混在した状態のもの。ルムンを醸造用の鍋に入れて加熱し、蒸気を冷却器に通して酒を作った。

ム^hン^hヌ^h・ヨイ [mun^hnu^h-joi] (連) 麦の収穫後の祝い。昔は麦の収穫が終る4月頃にあったが、今は行われていない。消滅した行事の一つ。

ム^hエ^hツ^hカナイ [me:^hk^hkanai] (副) はっきりと、バ^hタ^hー 「メ^hヒ^hカナイ ミ^hラ^hイ^hドゥ^hン ナ^hツ^hティヤー [ba^hta:^h me:^hçi^hkanai mi^hra^hi^hdu^hn natti^hjə:] (腹がはっきりと《大きくなって》見られるようになったよ。「妊娠したことがはっきりとわかるようになった」の意)。「メ^hエ^hツ^hカナイ [me:^hk^hkanai] とも発音される。

ム^hヤ^hキ^hナイ [ja:^hkinai] (名) 所帯。世帯。「ヤ^hキ^hナイ ム^hタ^hスン^hティドゥ 「ア^hイ^hラー [ja:^hkinai mu^hta^hsuntidu^h ʔa^hira:] (所帯を持たせようと《独立させよう》している)。

キ^hナイ^h ム^hタ^hスン^hテ^hイ^hラー [ki^hnai^h mu^hta^hsun^hte^hira:] (所帯を持たせようとしている)。

ム^hヤ^hヌ^hナー [ja:^hnu^hna:] (連) 家の名。童名。先祖の名(長男は直系の祖父の名を、長女は直系の祖母の名をもらってつける風習)をつける命名。ガ^hツ^hコー^hヌ^hナー [gak^hko:^hnu^hna:] (学校の名)、(戸籍上の名。明治になって戸籍が作られるようになり、その戸籍に記載された名前。学校などの公的機関で用いられた名前)の対。「カ^hー^hカ^hイ^hヌ マ^hチュ^hダー [ka:^hka^hinu ma^htʃu^hda:] (河上家の松さん)のように呼ばれた。童名で呼ばれると親しみを感じるという。

ム^hヤ^hム^hトウ [ja:^hmutu] (名) 実家。里。「家元」の義か。生れた家のこと。分家よ

りみた「本家」のこと。「バー」イ ウ「マ」ドゥ 「ヤー」ムトウ「ユー」 [「ba:ʔi ʔu'ma'du「ja:ʔmutu「ju:」] (私はここが実家《家元、里》です)。

「ヤー」ムトウ「ヤー」 [「ja:ʔmutuja:」] (本家)。

ヤ「ク」 [ja「ku」] (名) やく (厄)。

ヤ「ク」バレードゥ「 シー」トウ「 [ja「kubare:du」ʃi:ʔtu:」] (厄払いをするそうだ)。

ヤ「ク」バレーヌ ニンガイ「トウ「 [ja「kuʔbare:nu」ningai「tu:」] (厄払いの祈願だそうだ)。

ヤ「ナ」ウヌ [ja「naʔunu」] (名) 悪霊。「悪者」の義。ヤ「ナ」ウヌヌ 「ク」ター ナ「ラ」ン「バー」 「サン」ユー ユイウ「キー」 [ja「naʔununu」kutʔta: na「ramʔba:」saŋʔju: ju:ʔki:」] (悪霊が来るといけないから、魔除けのサンを結っておきなさい)。

ヤマ [jama] (名) お嶽。神を祀ってある所。竹富島には 「ム」ヤマ [「mu:ʔjama」] (六箇所のお嶽があり、それぞれ氏子によって支えられている)。

「ユー」・ナンカ [「ju:ʔnanka」] (名) 四七日忌。人が死亡して後、第四週目の命日にとり行われる法事。

「ユー」ニンガイ [「ju:ʔningai」] (名) 新暦5月17日、旧暦では4月18日～19日の二日間行われる。四月大祭。

「ユー」ミ・ハラ「スン」 [「ju:mi-haraʔsun」] (連) 嫁がせる。嫁に行かせる。 ミ「ドゥ」ナーヌ ファーユ 「ユー」ミ ハラ「スン」テラー [mi「duʔna:nu ɸa:ju」ju:mi-haraʔsunte:ra:」] (女の子《娘》を嫁に行かせる《嫁がせる》)。

「ユー」ンカイ [「ju:ʔŋkai」] (名) 「世迎え」の義。毎年旧暦8月8日に決って行われる。「ユー」 [ju:] (「世」豊年満作の年の意)。ム「ヌク」イ [mu「nukkui」] (「もの作り」、農作物の意) が豊で、豊饒である年を迎える祈願のこと。

ユ「ヌク」 [ju「nuʔku」] (名) 麦焦がし。麦を炒り焦がして石臼で碾き、粉にしたものに黒糖を削って混ぜたもの。茶うけ、おやつに用いた。水で練って食べたりした。

ユ「ヌク」・ムチ [ju「nukuʔ-mutʃi」] (名) ユヌク餅。ユ「ヌク」ム「チ」 「マ」 「ス」 [ju「nuʔkumutʃe:」ma:ʔsu:」] (麦焦がしを餡にした餅は美味である)。麦を炒り焦がして黒糖を削り、混ぜたものを餡にして作った餅。ユ「ヌク」アン [ju「nukuʔan」] (ユヌク餡) を入れた餅。

ユ「ヌリ」ヤ [ju「nurja」] (名) 一周忌。人が死んで満一年目の命日に営む法事。一回忌。ユ「ヌリ」ヤヌ 「キシ」ター [ju「nuʔrjanu」kiʃiʔta:」] (一周忌がやってきた)。

ユ「ミ」 [ju「mi」] (名) 嫁。息子の妻。ク「ヌ」 シ「ト」 バナ「ー」 ジ「ナン」ヌ ユ「ミ」ユー [ku「nuʔʃiʔto: banaʔ: dʒiʔnanu juʔmiʔju:」] (この人は、私の二男の嫁です)。

「ヨ」ヨムチ [「jo:jo:mutʃi」] (名) 米を煎って、それを石臼で碾いて粉にし、シ「ノ」 [ʃi「no」] (篩) でふるって黒糖を加え、捏ねて作った菓子。美味であった。

「リユー」カチラ [ʀju:ˀkatʃira] (名) 西部落のシンボルである旗頭のこと。「亢竜」(登り竜)を象ったデザインの旗頭。旧暦8月15日の十五夜に行われる綱引きの行事の際に マ「ミン」ドー (道路名) に集まった。

「ン」・ナンカ [n:ˀnaŋka] (名) 六七日忌。人が死亡して後、第六週目の命日にとり行われる法事。

「ン」ヌ「ダー」ッキー [nˀnuˀda:kki:] (名) イモと糯米の粉を煮てこねた食べ物。

アッ「コン」ナーユ 「バース」ヌヨー「シ 「バー」シシティ「 ム」ッ「チ」マイヌクー「ユ イ」リシティ ディー「リー」テイ カイー ム「ロー」ヌドゥ 「ン」ヌ「ダー」キッ「ティ アンズ」ヨーン ナル「ユー ム」カ「シェー」メー 「ク」ヌ シマ「ー ドゥ」シ「ー ム」ッ「チ」マイヌ ネーン「ム」ヌ ヤリ「ッ」ティ キ「ザ」レー タイ「ガイ」メー 「ン」ヌムチットウ 「ン」ヌ「ダー」キットウ「サー」ニドゥ 「シェール」ヨ「ー」ニ ナル「ユー [ʔakˀkonˀna:juˀba:sunujo:ʃiˀba:ʃiti:ˀmutˀtʃimainu ku:ˀju ʔiˀriʃiti: di:ˀriti kai: muˀro:nudu nˀnuˀda:kkiˀti ʔandzujon naruˀju: muˀkaˀʃe:me:ˀkunuʃimaˀ: duˀʃiˀ: mutˀtʃimainu ne:mˀmunu jaritti: kiˀdzare: taiˀgai me:ˀnˀnumutʃituˀnˀnuˀda:kkituˀsa:niduˀʃe:rujoˀ:ni naruˀju:] (イモを炊いて糯米の粉を入れてこねて、こう盛ったのが、ンヌダーキと言う。昔はもう、この島はそれほど糯米がなかったので、祭には大概イモ餅とンヌダーキとでやったようになっている)。

「ン」ヌムチ [n:ˀnumutʃi:] (名) いも餅。いもを搗り、柏の葉で包んでセイロに入れ、蒸して作ったいも餅。

ム「カ」シャー 「マイ」ヌー ネン「ム」ヌ ヤリ「ッ」ティ 「タイ」ガイヌ キ「ザ」ロー ンヌムチドゥ シェルヨニ ナリ「ユー ンヌ」ムチツテ ヲヤー 「ン」ヌドゥ 「サン」ガナサーニ スイ「シ」ティドゥ カッ「チャン」ヌ 「パー」ナー イ「リ」ッティ 「ン」ブ「シ」ッティ 「アン」ガル「ッ」トゥー トウ「リ」ヤーシー ウ「リ」ドゥメー 「ン」ヌムチ [muˀkaˀʃija:ˀmainu: nemˀmunu jaritti:ˀtaiˀgainu kiˀdzaro: n:ˀnumutʃiduˀʃerujo:ni nariˀju: n:ˀnumutʃittjunoja:ˀn:ˀjuduˀsaŋganasa:ni suiˀʃitidu: katˀtʃanˀnuˀpa:ˀna: ʔiˀritti mˀbuˀʃitˀti:ˀʔaŋgarutˀtu: tuˀriˀja:ʃi: ʔuˀriduˀme:ˀn:ˀnumutʃi] (昔は米がなかったので、大概の祭祀は、イモ餅でやったようになっている。イモ餅というのは、イモを搗りがねで搗って柏の葉に入れて、蒸して、蒸しあがると取り出して、それをイモ餅という)。

ン「バース」ン [ʔmˀba:suŋ] (動) びっくりさせる。驚かす。ヤ「ナ マ」ジュ「ノ」ー「ヒ トゥ」ンバーシ [jaˀna madzuˀno:ˀçiˀtu ʔmba:ʃi] (あの野郎! ひとを驚かして!))。

ン「マサル」ヌー [mˀmasaruˀnu:] (名) ごちそう (御馳走)。「おいしいもの」の義。

ン「マサル」ヌドゥ 「ヤー」サ ッ「クレース」ヌ「シェー」 [mˀmasaruˀnuduˀja:ˀsa

k¹kure:sunu¹ʃe:] (おいしいものをたくさん作ってあるよ。「うまいもの」。)

——分野(9) 遊戯——

「アー¹ネ¹トント¹ン」 [ʔa:¹ne¹tontɔŋ] (名) かたぐるま (肩車)。人を両肩に跨らせてかつぐ (担ぐ) こと。

「アー¹ネ¹トント¹ン」 シラー [ʔa:¹ne¹tontɔŋ¹ ʃira:] (肩車をしよう)。

ア¹スピドーラ [ʔa¹subido:ra] (名) 遊び友達。遊び同士。遊び仲間。

ム¹ッ¹カ¹シヌ ア¹スピドーラデン ナ¹ッ¹ティヤー [muk¹ka¹ʃinu ʔa¹subido:raden nat¹tija:] (昔の遊び仲間ですよ)。

ア¹スピドーラ [ʔa¹subido:ra] (名) 遊び友達。

ア¹スピドーラデン ナ¹ッ¹ティヤー [ʔa¹subido:raden nat¹tija:] (遊び仲間、友達になっているよ)。ム¹カ¹シヌ ア¹スピドーラデー¹タ ナ¹ッ¹ティヤー [mu¹ka¹ʃinu ʔa¹subido:rade:ta nat¹tija:] (昔の遊び友達であったよ)。バヤー ム¹ッ¹カ¹シヌ ア¹スピドーラデ¹ッタ ラ¹ラー [baja: muk¹ka¹ʃinu ʔa¹subido:radetta ra¹ra:] (我々は昔の遊び友達だったねえ)。

ア¹スブン [ʔa¹subuŋ] (動) 遊び。

「コー¹ナー¹イ ア¹スブンナ」 [ko:¹na:i ʔa¹subuna] (ここで遊ぶな)。カー¹ナー¹イアスベ¹ [ka:¹na:¹i ʔasube:] (あそこで遊べ)。タ¹ロー¹ン ア¹スブン シト¹ウヌ ブラナー¹ッ¹ティ¹ー 「ヤー¹タン¹チャー¹ ドウ アスビー¹ダー [ta:¹ro:¹ŋ ʔa¹subu ʃi¹tunu bura na:¹ti: ʔwo:¹tan¹tʃa:¹du ʔasubi:da:] (誰も遊ぶ人がいないので、貴方一人で遊んでいるのか)。「ワ¹ー [wo:¹] (貴方)。「ファー¹ナー¹ヌ メー¹ヌドウ ア¹スビスヌ¹シェ¹ー [ʔa:¹na:¹nu me:¹nudu ʔa¹subisunu¹ʃe:] (子供たちが遊んでいる)。「マ¹ジョ¹ー¹ン ア¹スピタ¹ッ¹テ¹ラー [ma¹dʒo:¹ŋ ʔa¹subitatte¹ra:] (一緒に遊びたい)。「マ¹ジョ¹ー¹ン ア¹スバディ¹ー [ma¹dʒo:¹ŋ ʔa¹subadi:¹] (一緒に遊ぼうよ)。「バン¹ダー¹ヤー バ¹ショ¹ー¹サー¹ニヤー ア¹スバヌ¹ー [ban¹da:¹ja ba¹ʃo:¹sa:¹nija ʔa¹subanu:] (私達は君たちとは遊ばない)。「バ¹シャー¹ ア¹スブスニ¹ヤッター バ¹ヌ¹ン ア¹スブン [ba¹ʃa:¹ ʔa¹subusuni¹ jatta: ba¹nu¹ŋ ʔa¹subuŋ] (君たちが遊ぶなら私も遊ぶ)。「ワ¹ー [wa:¹] (あなた)。「バ¹シャー [ba¹ʃa:¹] (君たち)。「バ¹ノー [ba¹no:¹] (僕たち)。「バ¹ヌ [ba¹nu] (私)。「バ¹ナー¹ヤ [ba¹na:¹ja] (私は~)。「ア¹スイタ¹ッ¹ター ʔa¹suitat¹ta:] (遊びたかったら)。

ア¹バ [ʔa¹ba] (名) 魚名。オニオコゼ。体長は約20センチ。グロテスクな形態をしており、背びれに毒のある針を有している。保護色を持ち、岩と見誤って踏み、刺され

ることがある。刺されると激痛を伴う。この毒も「シュ」イキ [ʃuʔiki] (モンパ) の葉を搗いて当て、毒消しに用いた。

ア「バ [ʔaʔba] (名) 魚名。オニオコゼ。体長は約20センチ。グロテスクな形態をしており、背びれに毒のある針を有している。保護色を持ち、岩と見誤って踏み、刺されることがある。刺されると激痛を伴う。この毒も「シュ」イキ [ʃuʔiki] (モンパ) の葉を搗いて当て、毒消しに用いた。

ア「ヨー [ʔaʔjo:] (名) 凧の一種。凧の名の一。たけひご (竹籤) を十字形に結び、それに紙を張りつけただけで揚げる凧のこと。

ア「ヨー「ユンタ [ʔaʔjo:ʔjunta] (名) 古謡の一つ。ア「ヨー [ʔaʔjo:]ともいう。種取祭のときなどに歌われる。

「アンカンカー [ʔaŋkaŋka:] (名) けんか (喧嘩)。「アン」カン「カー」 シッター ナ「ラン」スン「ガー」 [ʔaŋʔkaŋʔka:ʔjitta: naʔranʔsuŋʔgaʔ:] (喧嘩をしたらいけないよ)。ク「ヌ」ファー ヤ「メ」ー カ「ー」リドゥ ウリヤー アン「カン」カー「シー」ルンドゥ「ラー」 [kuʔnu ʔa:ja meʔ: kaʔ:riɖu ʔurija: ʔaŋʔkaŋʔka:ʔji:runduʔra:] (この子は少し変わっているから喧嘩するよ)。「アン」カン「カー」 スーナー [ʔaŋʔkaŋʔka:su:na:] (喧嘩するな)。「アンカンカー」 シー「デー」ジ「デッタ」ラー [ʔaŋkaŋka:ʔji: ʔde:dʒiʔ dettaʔra:] (喧嘩をして大変だったよ)。

イ「ジナツ「カー」 [ʔiʔdʒinakʔka:] (副) 一生懸命に。ア「スイ」タツ「ター」 イ「ジナツ」カー「ア」スベー [ʔaʔsuitatʔta: ʔiʔdʒinakʔka: ʔaʔsube:] (遊びたかったら一生懸命遊ばない)。

イ「ジュツ「サー」 [ʔiʔdʒusʔsa:] (名) 「魚草」の義。その草を搗いて汁をしぼり、海中に入れて魚が浮き上がってくるのを漁獲するのに用いる草。

イ「シュシ [ʔiʔʃuʃi] (名) 潮干狩り。

「キュ」ヤヤー 「シュ」ーヌドゥ 「デ」シュツ「ティ」ヤー イ「シュシ」ナ「ハラ」ディー [kjuʔjaja: ʔu:ʔnudu nʔdiʃutʔtija: ʔiʔʃuʃina haraʔdi:] (今日は潮が干くから潮干狩りに行こうよ)。

「ウー」ン [ʔu:ʔŋ] (動) 泳ぐ。

「ウ」イヤー [ʔuʔija:] (泳ぎなさい)。

「キュ」ヤヤー ア「ツァ」リヤー 「ウ」イティ 「クー」 [kjuʔjaja: ʔaʔtʃaʔrija: ʔuʔitiʔku:] (今日は暑いから泳いでこい)。マ「ジョー」ン 「ウ」イナ「ハラ」ディー [maʔdʒo:ŋ ʔuʔina haraʔdi:] (一緒に泳ぎに行こう)。ア「ササル」 ドゥン「ナー」ユ 「ウ」ミ [ʔaʔsasarudunʔna:ju ʔuʔmi] (浅い所で泳げ)。「バン」ダーヤ 「キュ」ヤヤー 「オ」ー「ヌ」 [banʔda:ja kjuʔja: ʔoʔ:ʔnu] (私は今日は泳がない)。「ハイ」サー 「ウー」イヤー [haiʔsa: ʔu:ʔija:] (早く泳げよ)。「オン」バー 「ウ」ー「ナ」 [ʔomʔba:

「ʔu:ʔna」(君は泳ぐな)。「ウーマディー」[ʔu:maʔdi:](泳ごうよ)。「ワー ウー
〜スニヤッター バヌン ウー〜ン」[wa:ʔu:ʔʔsuniʔjatta:baʔnuʔŋʔʔu:ʔŋ]
(君が泳ぐなら僕も泳ぐ)。「ウーワン」[ʔu:ʔwan](泳いでも〜)。「ウ〜 シト
ー」[ʔu:ʔfito:](泳ぐ人〜)。

ウ〜ゾ〜 [ʔu:ʔdzo:](名) いいだこ(飯蛸)。体長約25センチ程の小型の蛸。これは、
イ「ジュッ」サの汁で酔ってもすぐ元気になる。他の魚類に比して酔いより醒めるのが
早いという。

ウ「ディ」カイ [ʔuʔdiʔkai](名)「腕かけ」の義。腕相撲。ウ「ディ」カイ「ラ
[ʔuʔdiʔkaiʔra](腕相撲をしよう)。

ウ「ディ」ボー [ʔuʔdiʔbo:](名)竹富島の種取祭に奉納される仲筋部落婦人会が演じる
郷土芸能。「ミー」ドーナ ウ「ディ」ボー [mi:ʔdo:nuʔuʔdiʔbo:](女性の腕棒踊り)
という。庭の芸能。

ウトン [ʔuton](動)うたう(歌う)。

ウ「タ」イ「ジェー」ニー [ʔuʔtaʔʔiʔdʒe:ʔni:](歌を歌ってごらん)。「ワー」 「アン」
デ「クイ」ヌ アリーヤ「ワー」ウター「メー」シュトウシュ〜トウ イ「ジェー」
ー「ニー」[wa:ʔʔanʔdeʔkuiʔnuʔari:jaʔwa:ʔʔuta:ʔme:ʔʔutuʔʔuʔʔiʔdʒe:ʔni:]
(君はあんなに声があるから、君の歌をもう一度歌ってごらん)。「マ」ジョーン「ウ」
タ イジャー [maʔdʒo:ŋʔʔuʔtaʔʔidʒa:](一緒に歌おう)。「ウター」イ「ジャル」ヌ
[ʔuta:ʔʔiʔdʒarunu](歌は歌えない)。「バン」ダーヤ「ウター」イ「ジャヌ」
[banʔda:ja:ʔuta:ʔʔiʔdʒanu:](私は歌を歌わない)。「ウター」イ「ジャディー」
[ʔuta:ʔʔiʔdʒadi:](歌を歌おうよ)。「タードゥ」イジリヤ「ー」[ta:duʔidʒiri:ja:](誰が歌
っているか)。「ワー」ウ「トース」ニヤッター バヌン ウトンドウ「ラー」[wa:ʔ
ʔuʔto:suʔnijatta:baʔnuʔŋʔʔutonduʔra:](君が歌うなら私も歌うよ)。「ノー」シ「ウタ
ー」ン「ジョー」ジェー「ナ」ラ「ル」ヌ「チョッ」ター [no:ʔʔiʔuta:nʔdʒo:dʒe:ʔ
naʔraʔrunuʔʔʔotʔta:](いくら歌っても上手になれない)。「ハイ」サ「ウタイヤ」
[haiʔsaʔʔuʔtaija:](早く歌えよ)。

「オーヌ」・「マ」イ [ʔo:nuʔma:i](連)このあたり。この辺。

「オーヌ」マ「イ」ヌ「フアー」ナーヌ「タイショ」ー「デー」ッタ「ナッティヤ」
[ʔo:nuʔma:i:nuʔʔa:ʔna:nuʔtaiʔʔo:ʔde:ʔtta natti:ja:](この辺の子供の大將であったよ)。

「オン」ダー [ʔonʔda:](名)海水浴。(石垣方言からの借用語か?)。「オン」ダー「シ
レ」ー [ʔo:da:ʔʔi:re:](海水浴をしなさい)。

カッ「キ」 [kakʔki](名)かけごと(賭事)。

カッ「キ」シ「ル」ン「ダ」ー[kakʔkiʔʔi:runʔda:](かけごと《賭事》をする)。「カッ「キ」
サー」ニ「マ」キ「タ」チョッ「ター」[kakʔkiʔsa:ni maʔkitatʔʔotʔta:](賭事で負けてしまった)。

カッキ [kak'ki] (名) ゆびきり (指切り)。

カッキー シラー[kak'ki:ʃi'ra:] (指切りをしよう)。

カブヤナー [ka'bujana:] (名) 凧の一種。

クジ [ku'dzi] (名) くじ (籤)。

クジ ヒクッカサーニドゥ アタリチョッター[ku'dzi ɕi'kukka'sa:nidu ʔa'taritʃot'ta:] (籤を引いたところ、当たっているよ)。クジ ヒクッタードゥ アタリチョッター[ku'dzi ɕi'kutta:du ʔa'taritʃot'ta:] (籤を引いたところ、当たっているよ)。

クトゥ [ku'tu] (名) こと (琴)。

クトゥ ヒカイ [ku'tu ɕika'i:] (琴を弾きなさい)。クトゥ ヒケドゥ ウムッサーチョッター[ku'tu ɕikē:du ʔu'mus'sa'tʃo:t'ta] (琴を弾いたので、おもしろかったよ)。クトゥヤー キューヤ ヒキッターネー [ku'tu'ja: 'kju:'ja ɕi'kitta:ne:'nu] (琴は、今日は弾きたくない)。

クマ [ku'ma] (名) こま (独楽)。

クマ マーシェー[ku'ma ma:ʃe:] (こまを回しなさい)。

グールトウツカイ [gu'ru:tukk'ai] (名) 桜貝を集めて、一掴み手の甲に乗せて上に投げあげ、その間に片手で手のひらを広げて落下する貝を受け、その数を競う遊び。女兒の遊び。グールトウ [gu'ru'tu] は「貝の名」。ツカイ [k'ai] は「掴み」の意であろうとのこと。グールトウ ヒカイヤー [gu'ru'tu ɕikai'ja:] (貝取り遊びをしよう)

ゲーッサ [ge:ssa] (名) 遊びの一種。

サビ [sa'bi] (名) じゃんけん (石拳)。

サビ シラ[sabi'ʃi'ra] (じゃんけんをしようよ)。男児のサビは、親指と人差指 (食指) と小指でやった。親指は一差指に勝ち、一差指は小指に勝つルールである。シー!! シー!! と声を出しながら指を出して勝負を決めたという。勝った者は負けた者の手を打って遊ぶ。女兒は、グー、チョキ、パーで遊んだという。親指は鶏で小指は虫の意であったという。

サンシン [sanʃin] (名) 三味線。

サンシンユ ヒッキオーリヤー[sanʃinju ɕik'kio:'rija:] (三味線を弾きなされ)。ジャヒサンシン[dʒa'ɕi'sanʃin] (蛇皮三味線)。シブバイ [ʃi'bubai] (和紙を芭蕉の浜で張った三味線) などがあつた。

シトネーマントネー [ʃi'tone:mantone:] (名) 片足とび。

シトネーマントネー シラディ [ʃi'to'ne:'mantone:'ʃira'di:] (片足飛びをしようよ)。道路に直径約1.5メートルの円をかき、その中で片足を後方に折り曲げ、

片手でそれをつかみ、片足飛びをして相手に体当たりして円の外に相手を押し出す遊び。
シ「ブバイ [ʃiˈbubai] (名) 三味線の一種。胴を和紙と芭蕉の渋で張った三味線。あまり鳴らなかった。にしきへび(錦蛇)の皮で胴を張ったジャ「ヒ「サンシン [dʒaˈçiˈsanʃin]より劣る。

シ「ミ「ダンコ [ʃiˈmiˈdanʒko] (名) ツルソバの葉(石垣の上に這っている)の新芽の部分を取ってカ「チャヌパー[kaˈtʃanupa:](芭蕉の葉)に少々塩を入れて包み、重石をかけておいて漬物代りにして食べる遊び。女兒の遊びであった。シ「ミ「ダンコ [ʃiˈmiˈdanʒko]とも発音される。時々シ「ビ「タンゴ[ʃiˈbiˈdanʒko]とも発音され、丁寧な発音ではシ「ミ「ダンコとなり、シ「イ「ダンコ[ʃiˈiˈdanʒko]ともなる。

「シャク [ʃaku] (名) 「尺」の義か。凧あげする際、風を受けて浮揚させるために風の流れに対する凧の角度を決める糸の長さ。ツ「クダーヌ「 シャ「ク「ヤ 「ジョー「トーニ アトゥ「ナツ「ター トゥ「バナドゥ「ラー[kˈkʰudaːnuˈ ʃaˈkuˈjaˈ dʒoːˈtoːni ʔatuˈnatˈtaː tuˈbanuduˈraː] (凧の尺糸は上手に当てないと《決めないと》飛ばないよ)。

ジャ「ヒ「サンシン [dʒaˈçiˈsanʃin] (名) 蛇皮三味線。胴を蛇の皮で張って作った三味線。

「シュ「イキ [ʃuˈiki] (名) 海岸に生えており、その幹で水中眼鏡を作るに用いた。(モンパの木)。その葉を搗いて毒魚に刺された患部に当て、包帯しておき、汁に砂糖を加えて少し飲むと、30分程で痛みがとれたという。ヤ「ト「ウイジョ「 [jaˈtuˈidʒoː]という魚の毒針に刺されたときの解毒法である。

シュ「バヤ [ʃuˈbaja] (名) しばい(芝居)。

「キュー「ヤー イ「ナシナ「 シュ「バヤヌ キー「ドゥ「ッティヤー シュ「バヤー ミ「ナティドゥ ハ「ロー[kjuˈjaː ʔiˈnafinaː ʃuˈbajanu kiːˈduttijaː ʃuˈbajaː miˈnatidu haˈroː] (今日は石垣島に芝居が来ているので、芝居を見に行く)。昔は竹富島にも芝居の巡業が来たという。大正の末頃、沖縄から巡業に来て、瓦葺きの大きな家を借り、興行したという。

シュ「ム [ʃuˈmu] (名) 相撲。角力。

シュ「ム トゥ「リ[ʃuˈmu tuˈri] (相撲をとれ)「シュ「ヌドゥ シュー「サ「チョッ「ター [ʃuːˈnudu ʃuːˈsaˈtʃotˈtaː] (相撲が強い)。

ジ「ラバ [dʒiˈraba] (名) 古謡の一つ。流暢な曲。曲の流れがやや遅い。

「ジントウリ [dʒinturi] (名) 陣取り遊び。地面に碁盤目の線を引き、相対して陣を構え、ジャンケンをしておはじき(御弾き)を弾いて碁盤目に入れながら領地を増していく遊び。

ス「ヌ「フクダ [suˈnuˈɸukudaː] (名) 角凧。三角形の凧。ス「ヌツ「クダー[suˈnuˈkʰudaː]

とも発音される（丁寧でない普通の会話での発音の際に現われる）。

スル [suˈru] (名) つる (弦)。三味線の弦。「ミー¹ジル [miːˈdʒiru] (細い弦。女弦)、
「ウー¹ズル [ʔuːˈdzuru] (太い弦。雄弦)、ナ¹カ¹ズル [naˈkaˈdzuru] (中弦。中間の弦)
の三弦がある。

「ソー [soː] (名) 三味線の棹。三味線の胴の部分から上方に弦を張った部分。

「タイ¹ク [taiˈku] (名) たいこ (太鼓)。

「タイ¹ク ウ¹チー [taiˈku ʔuˈtʃiː] (太鼓を打ちなさい)。「ウー¹ダイ¹ク [ʔuːˈdaiˈku]
(大太鼓、大きな太鼓)、「クー¹ダイ¹ク [kuːdaiˈku] (小太鼓) がある。

「タイムマ [taimma] (名) たけうま (竹馬)。「タイムマ¹ナー 「ヌー¹リ¹シティー
ア¹スウッタラ¹ー ム¹カ¹シエー [taimmaˈnaː ˈnuːriˈʃiːtiː ʔaˈsuuttaraː muˈkaˈʃeː]
(竹馬に乗って遊んだよ、昔は)。「ドゥー¹サーニドゥ 「タイムマ¹ ッ¹クリッ¹ティ
ー 「アンネ¹ ア¹スブタナッ¹ティヤー [duːˈsaːnidu ˈtaimmaː kʰuritˈtiː ˈʔanneː
ʔaˈsubutanatˈtijaː] (自分で竹馬を作ってあんなに遊んだよ)。「ナッ¹ティヤー
[natˈtijaː] (～よ。終助詞)。

タ¹ビヒキャ [taˈbiçikja] (名) はまゆう (浜木綿) の表皮を剥ぎ、内皮のビニール状
の部分を利用して、その中に蛭を入れて遊んだ。提灯にして遊んだ。浜木綿の皮は
イーヤチー [ʔiːjatʃiː] (おにぎり) の皿にも使った。

タ¹ナー [taˈnaː] (名) 木の上に柵をかけてそれに上って遊ぶもの。夏の暑い時によく
柵の上で遊んだ。

ティ¹マ [tiˈma] (名) 手間賃。手間代。小遣い。ティ¹マ¹ ピードウリーヤ 「トゥ
ーサタッ¹ティン 「ヒーッティー クー [tiˈmaː piːduriːja ˈtuːsataːˈtiŋ ˈç̥iːtti kuː] (手
間賃をやるから、遠くても行って来い)。

ヅ¹クダー [kʰkʰudaː] (名) たこ (凧)。

ヅ¹クダー ハリティー ソン¹ガチェーヤ ヅ¹クダー ハリティドゥ¹ ダン¹ティ¹
トゥ¹バスタナッ¹ティヤー [kʰkʰudaː haritiː soŋˈgatʃeːja kʰkʰudaː haritiduː danˈtiː
tuˈbasutanatˈtijaː] (凧を張って、正月には凧を張って飛ばしたよ)。「ヅ¹クダー
[kʰkʰudaː] (凧) とも発音される。ゆっくり、丁寧に発音するとヅ¹クダーとなる傾向
が認められる。「ヅ¹クダー トゥ¹バサディ¹ー [kʰkʰudaː tubasadiːˈ:] (凧を飛ばそうよ)。

「デー¹ッタナッ¹ティ¹ヤー [deːttanattiˈjaː] (連) ～であったよ。「duːˌjatteːˌnatteːˌjaː]
の縮約形か。「～ぞ・であって・なている・よ」の義か。

トゥ¹ドー¹リ [tuˈdoːˈri] (副) 大きく負けること。大欠損をすること。大いに。大分に。
したかなこと。

トゥ¹ドー¹リ ッ¹サー [tuˈdoːˈri ssaː] (大打撃を受けた。大欠損をした。大いに負け
た)。

ナ「ター」ッ「ティヌ」・ナカー[na'ta:t'tinu'naka:] (連) あの二人の仲は、ナ「ター」ッ「ティヌ」 ナカー 「デー」ジッ「ティ」 「カイ」サダ「ルー」[na'ta:t'tinu'naka: 'de:dʒit'ti 'kai'sada'ru:] (あの二人の仲は大変よい。大変にきれいだ)。

ナ「ワ」トビ[na'wa'tobi] (名) なわとび (縄飛び)。

「ナン」ガ「シャー」[nan'gaʃa:] (名) なぞなぞ (謎謎)。「ナン」ガ「シャー」 シー アスバ「ディ」ー[nan'gaʃa:ʃi: ʔasuba'di:] (なぞなぞをして遊ぼうよ)。例、「ジー」ヌ 「ジー」マ「ガリ」ヤーヤ 「ノー」ラー[ʔdʒi:'nu 'dʒi: magarja:ja 'no:ra:] (字の曲ったのは何か)。

「ニン」ギョ「ナー」[niŋ'gjo'na:] (名) にんぎょう (人形)。

「ニン」ブ「チャー」[nibutʃa:] (名) 念仏者。竹富島の念仏者は代々世襲制であったという。前浜家がその職を担当したという。その後新本家に移ったという。

「ヌ」ッサー「・ヌ」ッサー[ɲussa:~ɲussa:] (副) 温温と。「ヌ」ッサー「・ヌ」ッサー「シ」 ティ「ダー」 フ「ヌ」イ[ɲussa:~ɲussa:ʃi ti'da:ʔɸu'nui] (温温と太陽に当って温まりなさい)。
バ「シ」ョ「サー」ニ[ba'ʃo:sa:ni] (連) 君たちと。バ「シ」ョ「サー」ニ「ヤー」 ア「ス」バヌー[ba'ʃo:sa:nija:ʔa'subanu:] (君たちとは遊ばない)「ビ」ド「ター」イ「ドゥ」 ア「ス」バ「バー」[bi'do:ʔta:'i du ʔa'suba:] (男の子とだけ遊ぶ)。

ヒ「クン」[çi'kuŋ] (動) ひく (弾く)。

「バン」ダーヤ 「キュー」ヤ ヒッ「カヌー」[ban'da:ja 'kju:ʔja çi'k'k'anu:] (私は、今日は弾かない)。「キュー」ヤ ヒ「キッター」ネー「ヌ」[kju:ʔja çi'kitta:ne:'nu] (今日は弾きたくない)。
ヒッ「キハ」ジ「シター」[çi'kihadži:ʃita:] (弾きはじめた)。
ヒッ「クシ」ト「ヌ」ド「ウ」 ブ「ラー」ン「シェー」[çi'kuʃitunudu bu'ra:ŋʃe:] (弾く人がいない)、「ワー」 ヒッ「クス」ニ「ヤッター」 「バヌン」 ヒクン[wa: çi'kusuni'jatta: banuŋ çi'kuŋ] (君が弾いたら私も弾く)。

「ピョー」ダイ[ɸjo:dai] (名) 笛。

「ピョー」ダイ「フ」キ「ル」ヌ「ヤッ」ティー アン「ネー」 ウ「ッ」サ 「スヌ」シェー[ɸjo:dai ɸu'ki'runu jatti: ʔan'ne: ʔu:ʃ'sa'sunu'ʃe:] (笛を吹いているので、あんなにおもしろいよ)。
トゥ「バル」マーヤ 「ピョー」ダイヌ ヘー「ヤード」ウ 「ウ」ッ「サ」ル「ルー」[tu'ba'ruma:ja ɸjo:dainu he:'ja:du ʔu:ʃ'sa'ru:] (トゥバルマ節は笛の音が入った方がおもしろい)。

「ピョー」レー「ゴツ」ト[ɸjo:~rē:got'to] (名) かくれんぼ (隠れん坊)。ジャンケンで鬼を決め、他は隠れて見つけられぬようにする。それを鬼が探し出し、最初に見つかった者が次の鬼となる遊び。

「ピョー」レー「ゴツ」ト「シラー」[ɸjo:~rē:got'to'fira:] (隠れん坊をしようよ)。

「ブー」サー[bu:'sa:] (名) じゃんけん (石拳)。沖縄から入ってきた遊びかという。グ

一、チョキ、パーで勝負する遊び。

ブ「サ」フニ[bu^hsa^hɸuni] (名) 尾骨。尻の尾の部分の骨。「マー」フニ[ma^h:ɸuni] (前骨) よりやや短かめにし、尻の形状が逆台形になるように作った。尾骨の両端に糸を結んで尺を当てて流し、尻が回転しないように安定させた。

フ「ジ」[ɸu^hdʒi] (名) おみくじ (御神籤)。つかさ (司、神女) が神意を知るため、神前で祈願をした後に、盤上や皿の上に米粒を並べて吉区を占うこと。

フ「ジ」 ヒケー「ニ」[ɸu^hdʒi^h ɕi^hke:^hni] (籤を引きなさい)。「マイシジサーニ」 フ「ジ」 ヒケー「ニ」[mai^hʃidzisa:^hni^h ɸu^hdʒi^h ɕi^hke:^hni] (米粒で籤を引いてごらん)。フ「ジ」 ヒクッカサーニドゥ 「イー」 フジヌドゥ 「トーライ」ル 「ユー」[ɸu^hdʒi^h ɕi^hkukkasa:^hnidu^h ʔi:^h ɸudʒi^h to:^hrai^h ru^hju:] (籤を引いたら、いい籤をいただいたのです)。

ブ「ドゥイ」・シールン[bu^hdui-ʃi:ruŋ] (連) 踊る。踊りする。ブ「ドゥイ」 シレー[bu^hdui ʃi:re:] (踊りをしなさい。踊れ)、ブ「ドゥレ」ー[bu^hdure:^h] (踊れ)。ブ「ドゥイドゥ」 シーラー「ー」[bu^hduidu ʃi:ra:^h] (踊をしているのか。踊っているのか)。ク「ヌ」 ドゥン「ナーヤ」ー ブ「ドゥイ」 スーナ「ー」[ku^hnu dun^hna:^hja bu^hdui su:^hna:^h] (ここでは踊るな)。ブ「ドゥリタダ」ル「ー」[bu^hduri tada:^hru:] (踊りたい)、ブ「ドゥイ」 シタダ「ル」ー [bu^hdui ʃi:^htada:^hru:] (踊りたい)、ブ「ドゥイ」 シール シトゥヌ ドゥ「ブ」ラーヌ [bu^hdui ʃi:ru^h ʃi:^htunudu^h bu^hra:^hnu] (踊りする人がいない)。「ワー」 ブ「ドゥイ」 シース「ッ」ター バ「ヌ」ン ブ「ドゥイ」 シールン[wa:^h bu^hdui ʃi:sut^hta:^h ba^hnu^hm bu^hdui ʃi:ruŋ] (君が踊ったら私も踊る) ウ「〜」ッ「サ」 ブ「ドゥラリタ」チョ「ッ」ター [ʔu^hʔs^hsa bu^hdurarita tʃot^hta:] (大変おもしろく踊ることができた。踊れた) ウ「〜」ッ「サ」 ブ「ドゥイ」 シー「ッ」ター 「ケー」ラーラ フ「ミ」ラリ「シ」ター [ʔu^hʔs^hsa bu^hdui ʃi:t^hta:^h ke:^hra:ra ɸu^hmirari^hʃi:ta:] (上手に踊ったので皆から誉められた)

「マー」フニ[ma^hɸuni] (名) 尻の頭部の大きな骨。ブ「サ」フニ[bu^hsa^hɸuni] (尾骨) よりやや長めにし、完成後に糸で弓状に曲げ、その糸 (弦に当たる部) に細長い、うすい油紙を張って風に当てて鳴らした。

「マー」リヤ[ma:^hrja] (名) まり (鞠、毬)。ソテツの花 (毛状のもの) を集めて日干しにし、水分を除去して軽くする。それを糸 (麻糸) で巻いて作った。「ハナ」マー「リヤ」 [hana^hma:^hrja] (毬の表皮に花の刺繍を施したもの) というのもあった。

ミ「ズ」フキヤ[mi^hdzuɸukja] (名) 水鉄砲。

「ミ」ツチングヤ「ー」[mittʃinguja:] (名) 女の子の隠れん坊。女兒が母親の冬用の厚手の着物をもってきて、二班に分かれ、1班は家の中にいて着物を被って隠れる。門の外に出ていた二班の子供が着物の中に隠れている子供を触りながら名前を当てる遊び。「見つけくらべ」の義か。

「ミュ」〜ヌ[mju^h~nu] (名) 「見もの」の義。見世物。「ミュ」〜ヌ デ「ッ」ターラ「ー」 「キュ

ー「ヤー 「デーヅッ「ティー 「ウ〜ッ「サル 「ミュ〜ヌドゥ 「ミッ「ティ 「クッ「タ
「ルー「[mjuːˈnu dettara: ʔkju:ˈja ʔde:dzit ˈti ʔuːsˈsarʊ ʔmjuːˈnudu ʔmit ˈti
ʔkutˈtaːru:] (見世物であった。今日は、大変おもしろい見世物を見て来たよ)

「ムー「ヤイ「[mu:ˈjai] (名) もやい (催合)、たのもしこう (頼母子講)。無尽講。「ムー
「ヤイヌ ク「ジッ ヒ「クッター「ドゥ バ「ヌ「ナー ア「タリシェー「[mu:ˈjainu
kuˈdʒi ʔgiˈkutta:ˈdu baˈnuˈna: ʔaˈtarife:] (頼母子の籤を引いたら、私に当たっている
よ)。

「メー「シュトウシュ〜トウ「[me:ˈʃʊtuʃuːtu] (連) もう一度。「ワー「 ウター 「メー「
シュトウシュ〜トウ イ「ジェー「「ニー「[wa:ˈ ʔuta: ʔme:ˈʃʊtuʃuːtu ʔiˈdʒeːˈni:] (君
の歌をもう一度歌ってごらん)。「キュー「ヤ ブ「ガ「リドゥリヤー ウター イ「ジャ
リオーサネー「ヌ「 バ「ショー「ホー「イ イジョー「リ「[kju:ˈja buˈgaˈri durja: ʔuta:
ʔiˈdʒario:saneˈnuˈ baˈʃo:hoːˈi ʔidʒoːˈri] (今日は疲れているから歌は歌えない。あ
なた方で歌いなされ)。

「ヤー「ツ「タフ「ニ「[jaːtˈtaʃuːni] (名) 尻の横骨。尻の頭骨より尾骨へわたす細い竹ひご。
薄く、細めに削って作った。

ヤ「〜「トウイジヨ「〜「[jaːˈtuːidʒoːˈʔi] (名) 魚名。毒針を有し、刺されると激痛を伴な
う。きれいな魚。刺されたら、「シュイ「キ「[ʃuiˈki] (もんば) の木の葉を搗いて滓を
患部に当て、汁に砂糖を混ぜて飲んだという。30分ほどで痛みがとれたという。ウ「
リン「 ッ「ソー「イシター メー 「ト「ー「ッ「ティ 「ティー「ヤ 「プッ「クイ シードウ
ナッ「ティ「ヤー「[ʔuˈrin ˈsˈso:ˈiʃita: me: ˈtoːˈtti ˈtiːˈja ʔpukˈkui ʃi:du natˈtiːja:] (そ
れに刺されると手はもう腫れてしまうよ)。

ヤ「ナイジ「[jaˈnaidʒi] (名) いじめ。悪くいう。悪し様に叱る。

ウ「ヌ ファーヤ「 シ「トウユー「 ダ「ー「ッ「ティ ヤ「ナイジ「 シルンドウ「ラー
[ʔuˈnu ʃa:jaˈ ʃiˈtuju:ˈ daˈːtˈti jaˈnaidʒi ʃirunduˈra:] (あの子は人をいじめるぞ)。

「ヤンダリ「ク「ナ「[jandariˈkuˈna] (名) かけっこ (競走)。「ヤンダリ「ク「ナ「 シラ「デ
ィ「ー「[jandariˈkuˈna ʃiraˈdiːˈ:] (かけっこしよう)。

「ヤンダリ「ク「ナ「 シ「ッ「ティー 「バー「ドゥ カ「チ「ッ「タナッ「ティ「ヤー
[jandariˈkuˈna ʃiˈtti: ˈba:ˈ du kaˈtʃitˈtanatˈtiːja:] (かけっこして、私が勝った)。

「ユングトウ「[jungutu] (名) 古謡の一つ。主に教訓的な内容をもつという。

「ユン「タ「[junˈta] (名) 古謡の一つ。曲の流れがやや早い。田畑の耕作時に歌った労働
歌とされている。

「ヨイサ「[joisa] (名) ぶらんこ。鞆。二本の綱を木の枝に吊り下げて横木に結わえ、
それに乗って前後にこぎ揺らせて遊ぶ遊具。

「ヨイサ クイ⁷ヤー⁷ [ˈjoisa kui⁷ja:] (ぶらんこを漕ぎなさい)。

「ヲータン⁷チャ⁷ [ˈwo:tan⁷tʃa:] (連) 君一人。「ヲータン⁷チャ⁷ドゥ アスピーダー
[ˈwo:tan⁷tʃa: du ʔasubi:da:] (貴方一人で遊んでいるのか)。「ハイ⁷サ ア⁷スピッテ
ィー ハイ⁷サ 「カイ⁷リク⁷「ナ⁷ [ˈhai⁷sa ʔa⁷subitti: hai⁷sa⁷ˈkai⁷riku: ˈna⁷:] (早く
遊んで、早く帰ってきなさいよ)。「ア⁷スブドゥン⁷ナー カ⁷ナイ⁷ドゥ ッスヌシェ
ー [ʔa⁷ˈsubudun⁷na: ka⁷ˈnai⁷du ssunufe:] (遊ぶ所が整っている。～揃っている。～十
分にある)。

ン⁷タブン [n⁷ˈtabun] (動) もて遊ぶ。弄ぶ。遊ぶ。いじる (弄る)。ン⁷タイ フジ⁷ル
ン [n⁷ˈta⁷iʃudzi⁷ruŋ] (いじる。いじくる (弄くる))。「ティー⁷ヤ ュ⁷グリドゥ ウリ
ヤー ン⁷タブ⁷ナ [ˈti:ˈja ju⁷ɡuridu ʔuriˈja: n⁷ˈta⁷bu⁷ˈna] (手は汚れているから弄る
な)。「マ⁷ジョー⁷ン ン⁷タバ⁷ディー [ma⁷ˈdʒo:ˈn n⁷ˈtaba⁷ˈdi:] (一緒にいじろう)。「ン⁷
タブ⁷ シトウドゥ プ⁷ランバー⁷ ナ⁷ラヌ⁷ クレー [n⁷ˈta⁷bu⁷ ʃi⁷tudu bu⁷ˈramba:ˈ
na⁷ˈranu⁷ ˈkure:] (いじる人がいないので、これは出来ない)。「ン⁷タブ⁷「タッ⁷ティン
タ⁷ロー⁷ン イ⁷ジュットー ネー⁷ヌ [n⁷ˈta⁷bu⁷ˈtat⁷ˈtin ta⁷ro:ˈŋ ʔi⁷dʒutto: ne:ˈnu] (い
じっても誰も叱る人はいない)。「ワー⁷ ン⁷タブ⁷「スニ⁷ヤッター バ⁷ヌ⁷ン ン⁷タ
ブン [ˈwa:ˈn⁷ˈta⁷bu⁷ˈsuniˈjatta: ba⁷ˈnu⁷n n⁷ˈtabun] (君がいじったら僕もいじる)。「ン⁷
タブ⁷バン [n⁷ˈta⁷ˈban] (いじっても～)。「ハイ⁷サ ン⁷タブ⁷「ヤ⁷ヤー [ˈhai⁷sa n⁷ˈta⁷ˈbiˈja:]
(早くいじりなさい)。